

昭和42年度

地力保全基本調査成績

〔佐呂間湖畔地域 常呂町〕

北海道立中央農業試験場

16

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて充分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和42年度に行なつた9地域12市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和43年3月

北海道立中央農業試験場

三 島 京 治

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土壌統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部土壌第3課)による。

土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	長谷部	俊雄
土壌改良科	科長	後藤	計二
”	第1係長	小林	荘司
”	研究職員	高尾	欽彌
”	”	菊地	晃二
”	”	水元	秀彰
”	”	伊東	輝行
”	”	坂本	宣崇
”	”	小林	茂

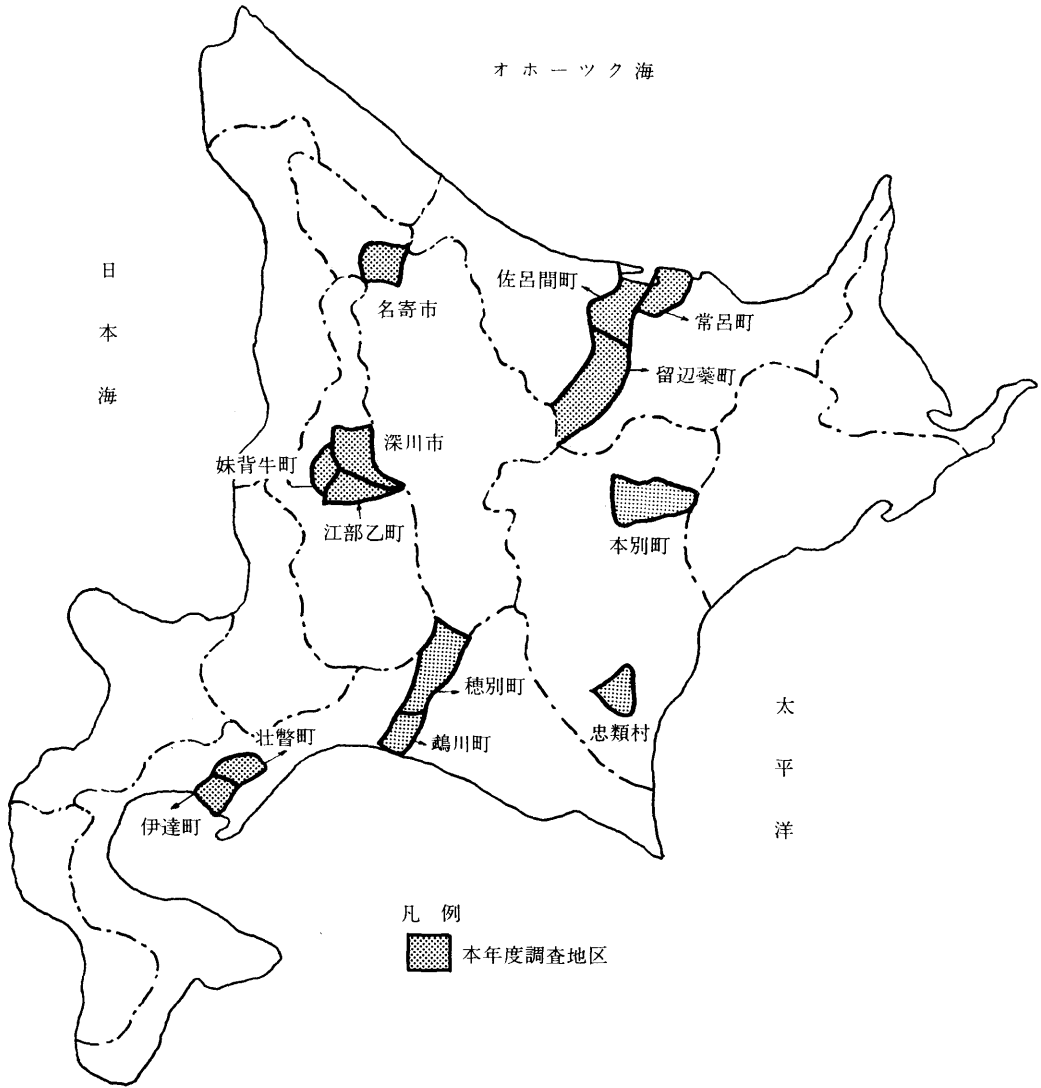
主に化学分析を担当した職員

研究職員	宮脇	忠
”	木村	清
”	松原	一実
”	上坂	晶司

1. 調査地域一覽

調査地域名	該当郡市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
十勝東部	中川郡本別町	108	9,972	—	270	108	9,702
十勝中部	広尾郡忠類町	—	3,688	—	—	—	3,688
佐呂間湖畔	常呂郡常呂町	55	4,335	—	1,223	55	3,112
	常呂郡佐呂間町	808	5,756	808	2,147	—	3,609
北見	常呂郡留辺蘂町	467	3,605	—	—	467	3,605
芦別	深川町	7,377	2,530	2,352	—	5,025	2,530
	空知郡江部乙町	2,380	1,091	175	240	1,590	851
上川北部	名寄市	1,590	4,163	—	2,465	866	1,698
洞爺湖畔	有珠郡伊達町	866	4,873	—	—	260	4,873
	有珠郡壮瞥町	260	1,655	—	—	417	1,655
日高沿岸	勇払郡鷓川町	2,557	768	2,140	—	925	768
日高北部内陸	勇払郡穂別町	1,127	1,007	202	—	—	1,007
空知北部	雨竜郡妹背牛町	3,249	215	—	—	—	—
合計		20,844	43,658	5,677	6,345	11,918	37,098

調査地区位置図



佐呂間湖畔地域 常呂町

1. 地区の概要

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 網走支庁管内 常呂郡常呂町

(2) 調査面積

都 市 町 町 名	農地総面積 (ha)				調査対象面積 (ha)				過年度調査面積 (ha)			
	水 田	普 通 畑	樹 園 地	計	水 田	普 通 畑	樹 園 地	計	水 田	普 通 畑	樹 園 地	計
常呂郡 常呂町	55	4335	—	4390	55	4335	—	4390	—	1223	—	1,223

本年度調査面積 (ha)				次年度以降調査面積 (ha)				備 考
水 田	普 通 畑	樹 園 地	計	水 田	普 通 畑	樹 園 地	計	
55	3,112	—	3,167	0	0	0	0	

2) 気 候

本町は北海道の東部に存在し、オホーツク海沿岸地域に属する。オホーツク海気団の影響を受けてしばしば冷湿害を受ける。

特にこの地帯の水稲は低温豪照による所謂冷害の被害程度が大きい。また豆類もこのような年には甚しい低収となる。

気候は一般冷涼で、降雨量が少ない。春季の強風乾燥期には一部風蝕を受ける地点がある。

網走測候所の観測成績は次表の如くである。

項目	月別	4	5	6	7	8	9	10	11
	気 温 (℃)	平 均	3.6	8.7	12.4	17.0	19.5	15.8	10.1
最高平均		8.2	13.5	16.7	20.9	23.5	20.1	14.8	6.9
最低平均		-0.2	4.6	8.8	13.8	16.3	12.4	6.3	-0.2
降水量 (mm)	平 均	46.8	70.5	64.6	89.3	98.8	120.6	81.4	67.4
湿 度 (%)		73	77	84	88	87	83	77	72
風 速 (%)		4.6	4.3	3.1	2.7	2.9	3.7	4.1	4.6
日 照 時 間 (時)		196.7	191.1	198.6	191.7	199.7	198.6	179.2	133.6

晩霜5月15日、初霜10月17日

3) 土地条形

(1) 地 形

本町は北部はオホーツク海に面し、西部はサロマ湖に接した東部のやや離れたところには能取湖が存在する。

本調査地区の東部を北見、十勝の国境に源をなす常呂川がやや南北に流れてオホーツク海に注いでい

る。この常呂川の流域には低平地が分布し、オホーツク海に達する約10kmより急激に低平地が開けていて本町の主要な農業地帯になつている。

この常呂川下流に分布する広い低平地の西部は標高10～70mの緩波状を呈する台地が広がりサロマ湖と境をなし、酪農地帯を形成している。

常呂川東部は急激な丘陵性山地が広がっている。しかし端野町に接するこれら山地の更に上流には標高60～200mの波状性台地が広がり、酪農経営地帯を形成して端野町字仁頃に連続している。

(2) 地 質

本調査地区の東部を南北に流れる常呂川上流西部の山地は古生層に属し砂岩及び赤色珪岩が多い、東部の丘陵地は中生層に属し主として砂岩、シルト岩、頁岩等からなつている。これら山地や丘陵地の裾にはそれらの岩石を母岩とする扇状堆積物が各所に分布している。常呂川流域に発達した低平地は両岸の地質を反映して砂岩、シルト岩、頁岩或は赤色珪岩の風化堆積物を母材とする河成沖積土が形成され、低平地が急激に広がる下流域では細粒質で粘質な土壌が堆積発達している。

この河成沖積地とライトコロ川の間には比較的広い低位泥炭地が発達分布している。またこの低位泥炭地の北部オホーツク海岸寄りには凝灰質を母材とする河成沖積地が分布し海岸線の砂丘に隣接している。

本町西部の標高10～70mの緩波状性台地は砂岩、シルト岩、頁岩その他を母材とする洪積世堆積物で、地表浅くまで甚だ堅密未風化な基盤層が分布し、俗に云われている重粘地を形成している。また東部海岸寄りの波状性台地～丘陵性の地帯も下部は中生層の岩層からなるが最表層は恐らく洪積世堆積物と考えられる堆積物に被覆されて前記同様重粘、堅密な土壌が生成されている。

(3) 侵蝕状況

本町東部の海岸寄りの丘陵性台地は傾斜がやや急なため侵蝕が発生している。西部の緩波状性台地も傾斜は比較的緩かであるが、堅密層が浅く透水不良のため春季融雪凍時や降雨には軽度の水蝕が発生する。また山地や丘陵地の裾部に分布する扇状地においても軽度の水蝕が発生する。

(4) 交通状況

常呂川沿いに道道が走り、下流の広い低平地は縦横に号線道路が発達し、海岸寄りに東西に一般国道が網走市、佐呂間町に接続して通つているため交通には不便でない。しかし西部台地の山地寄り及び端野町字仁頃に隣接する奥地の波状性台地は号線道路が未発達で、道路状況はあまり良好でない。

2. 土地利用及び営農状況

a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
9.3	0.07	7.7	—	1.5

b) 作付面積(1戸当平均ha)

作物	水稲	麦類	馬鈴薯	ビート	豆類	飼料作物	その他
面積	0.07	0.6	1.8	2.3	1.5	1.1	0.4

C) ビート作付，作量の推移

年 度	作 付 面 積	10 a 当収量
36	503ha	3.00t
37	690	3.02
38	934	3.16
39	1,059	3.10
40	1,257	3.59
41	1,300	3.70

D) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳牛	豚	緬羊	鶏
飼 養 戸 数	510	122	152	88	294
飼 養 頭 数	514	1,065	1,260	350	12,000
1 戸当平均飼養頭数	1.0	8.7	8.3	4.0	41

E) 労働の関係（1戸当人数）

家族人数	労力換算	季 節 雇	臨 時 雇
6.3	3.3	—	1.2

本町の農業地帯は常呂川その他小河流域の所謂沖積土地帯とこれに接して分布する低位泥炭地及び波状性台地や山地の裾に分布する扇状地等の3つに大きく分けられる。何れも海洋の影響を強く受け気候は冷涼であり畑作経営のみでは安定化に困難性を伴う、このようなことから本町西部並びに端野町仁頃に接する波状性台地では早くから有畜経営が行われて来ているが、酪農経営には多大の投下資本を要しましたその経済効率の回転が遅いこと等から安定規模への確立が未だ期し得られない現状にあり、今後家畜の増殖と多頭化，牧草の収量増加の造成等に一般の努力と内外の助成，指導等の必要性がある。

常呂川流域の沖積地は比較的地味良好であるが排水不良地が多く，これに連なる泥炭地も十分な排水の必要性が残されていて，耕地整備を実施するかたわら混同経営を更に推進充実することが望まれよう。

1) 土壤類型区分及び説明

(1) 土壤統一覧

(畑)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫, 砂礫層を混在する層	酸化沈積物	土 表		母材, 堆積様式
					表 土	次 層	
吉野南	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	壤質	壤質	洪積 非固結水成岩
能取西	" / "	表層腐植層なし	"	"	粘質	強粘質	" "
浜佐呂間	" / "	"	"	"	"	"	" "
豊美西	" / "	表層腐植層	"	あり	"	粘質	" "
岐阜阜	" / "	表層多腐植層	"	"	強粘質	強粘質	" "
鐺沸	" / "	表層腐植層	"	なし	壤質	砂質	水積 風積(海砂)
常呂川下流	" / "	表層腐植層なし	"	"	粘質	粘質	" 非固結水成岩
日吉東	" / "	"	"	"	壤質	砂質	" "
仁倉川	" / "	"	あり	"	強粘質	粘質	" "
豊川	" / "	"	なし	あり	"	強粘質	" "
共立東	" / "	"	"	"	粘質	壤質	" "
西口	" / "	表層腐植層	"	"	強粘質	粘質	" "
西口上	" / "	"	"	"	"	強粘質	" "
ライトコロ	" / "	表層多腐植層	"	なし	粘質	"	" "
日吉北	" / "	表層腐植層なし	"	あり	"	粘質	" "
福山	" / Y	"	"	なし	強粘質	強粘質	" " / 集積
土佐西	" / YR	表層多腐植層	"	あり	"	"	" 非固結水成岩
土佐	" / "	表層腐植層	"	"	粘質	壤質	" "
吉野東	" / "	"	あり	なし	強粘質	強粘質	崩積 固結水成岩
北陽南	" / "	"	なし	"	壤質	壤質	" "
日吉南	" / "	"	あり	"	強粘質	強粘質	水積 (扇状堆土)
福山南	" / "	表層腐植層なし	"	あり	"	粘質	" (")
富丘南	" / "	表層腐植層	"	なし	粘質	壤質	" 変成岩 (")
日吉小沢	" / "	表層腐植層なし	"	"	壤質	"	"
共立	" / "	全層多腐植層	なし	"	強粘質	強粘質	集積 ヨシ, ハンノキ
岐阜東	" / "	"	"	"	"	—	" ヨシ, スギナ, ハンノキ
岐阜南	" / "	"	"	"	"	—	" スゲ, ツルコケモモ ヤチャナギ, ヨシ

(2) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式	畑面積 (ha)	備 考
吉野南-吉野南	II t f n s e	88	調査面積 222
能取西-能取西	III d II t p f n i s	223	561
浜佐呂間-浜佐呂間	II w II t p f n	394	993
豊美西-豊美西	III t d p w II f n i s e	580	1,485
岐阜卓-岐阜卓	III d p w II t f n i s	553	1,434
鑑 沸-鑑 沸	III f n II t s e	29	73
常呂川下流-常呂川下流	II t p	389	978
日吉東-日吉東	II t (w) f	75	190
仁倉川-仁倉川	II t d	13	32
豊 川-豊 川	III p II t w	291	733
共立東-共立東	III w II t	37	94
西 口-西 口	II t p w f	42	105
西口上-西口上	II w II p	46	117
ライトコロ-ライトコロ	II t w f n	60	152
日吉北-日吉北	IV w II t p	75	190
福 山-福 山	IV w III f II p n	69	175
土佐西-土佐西	IV w II p f n	59	149
土 佐-土 佐	II t w n	228	572
吉野東-吉野東	III d f II t g p n i s e	440	1,133
北陽南-北陽南	II t p f n s e	28	70
日吉南-日吉南	III d i II t g p	109	275
福山南-福山南	III d II t g p w i	39	99
富丘南-富丘南	III d II t g p i s e	53	134
日吉小沢-日吉小沢	III d II t g i	23	58
共 立-共 立	III w f II t n	263	663
岐阜卓東-岐阜卓東	III w II t f n	138	347
岐阜卓南-岐阜卓南	IV w III n II t f	46	112

吉 野 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量10～13%，土性はS i Lが主である。色は7.5 Y Rで彩度1，明度1，発達弱度の粒状構造である。ち密度1.5内外で疎，pH(H₂O) 5.5内外。下層との境界は判然である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量5～7%，土性はS O Lである。色は7.5 Y Rで彩度4，明度4，細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細小孔に富む。ち密1.5～1.7で疎，pH(H₂O) 5.1前後。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き，土性はS Lがである。色は7.5 Y Rで彩度6，明度6，塊状

構造で発達程度は弱度のものが多い。細小孔を富む。ち密度20前後で中pH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は概ね漸変である。

第4層は地表下概ね65cm以下で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度7、明度6の場合が多い。粉状構造で細小中孔に富む。ち密度18前後で疎～中である。

代表的断面形態

所在地 常呂郡常呂町字日吉 試坑No. 仁5

第1層	0~25cm	腐植に頗る富む黒色(7.5YR1/1)のSiL, 発達弱度の粒状構造, ち密度15で疎, pH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾, 境界直線明瞭。
第2層	25~45	腐植に富む褐色(7.5YR4/4)のSCL, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む。ち密度17で疎, pH(H ₂ O) 5.1, 調査時の湿り半乾, 境界漸変。
第3層	45~65	腐植に欠く明橙褐(7.5YR6/6)のSL, 発達弱度の塊状構造, 細小中孔に富む, ち密度20で中, pH(H ₂ O) 5.7, 調査時の湿り半乾, 境界漸変。
第4層	65~	腐植を欠く明橙褐(7.5YR7/6)のSL, 単粒状構造, 細小孔に富む。ち密度18で疎。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~25	2.7	6.0	34.1	52.1	7.8	SiL	7.45	0.53	1.4	12.8
2	25~45	3.7	9.2	64.1	5.6	21.1	SCL	3.84	0.30	1.3	6.6
3	45~65	4.0	6.9	59.5	27.7	5.9	CL	—	—	—	—

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 mg/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.7	1.8	40.7	1.69	1.6	1.1	41.5	1.305	9.9
2	5.1	4.5	5.0	36.0	4.5	1.7	0.2	12.5	2.350	tr
3	5.7	5.0	1.0	26.3	3.0	0.9	0.4	11.4	2.140	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては吉野東統, 豊美西統があるが, 吉野東統とは堆積様式が異り, 豊美西統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形

5~10°の波状性傾斜を有する台地

C 気 候

気候一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ, しばしば冷害凶作に見まわれる。年平均気温5.6℃, 年降水量800mm前後。春季強風がある。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され, 馬鈴薯, ビート, 豆類, 飼料作物, 牧草等が栽培され, 一部は原野或は植林地になっている。

E 農業上の留意事項

凝灰質を母材としているため軽しうでかつ耐風蝕性が弱く、傾斜地では水蝕発生のおそれがあるから水蝕防止対策が必要である。また土壌は瘠薄化し易いと考えられるから有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましい。

F 分布 常呂郡常呂町仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
吉 野 南-吉 野 南	II t f n s e

② 土壌区別説明

吉野南 - 吉野南

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 層 厚 さ	表 土 層 粘 着 性	耕 起 易 難	透 水 性	保 水 性	自 然 肥 沃 度	固 定 力	養 分 分 布	置 換 性	有 機 質 量	微 酸 性	障 害 性	災 害 性	傾 斜 度	傾 斜 度	侵 蝕 性	耐 風 蝕 性										
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																	
II	I	I	I	2	1	1	I	1	2	1	2	2	2	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	II	2	2	2
簡略分級式 II t f n s e																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は吉野南統に属する。表土の厚さは20~25cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は礫なく中~細粒質で、粘着性弱く耕起、碎土は容易である。透水性良好で保水性中庸であり過湿過干のおそれは少ない。

保肥力大、固定力中庸で、土層の塩基状態は中庸もしくはやや低く自然肥沃度は中庸である。養肥分は中庸であるが、塩基の溶脱が早く、水蝕と相まって土壌は瘠薄化し易いと思われる。また磷酸に欠乏し易い傾向を有する。地形は緩傾斜~傾斜を有し水蝕発生のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯、ビート、豆類、牧草その他の飼料作物が栽培され、一部は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

緑作帯、牧草栽培等による水蝕防止対策が必要である。塩基の溶脱が早く比較的瘠薄化し易い土壌と

考えられるから有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。

D 分 布 常呂郡常呂町字仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

能 取 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17cm内外で腐植含量4~5%, 土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3, 明度4のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0~1.5で疎。pH(H₂O) 5.5~6.0, 下界との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20~25cmで腐植含量2%以下, 土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4~5, 明度4~5。細塊状構造で発達程度は弱度である。

細小孔を含む。ち密度1.8~2.2, pH(H₂O) 5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下概ね40cm以下で腐植を欠き, 土性はHCの場合が多い。色は5YRで彩度6, 明度4の場合が多い。発達弱度の塊状構造と薄片状構造を呈する。孔隙なく, ち密度2.8以上で甚密である。pH(H₂O) 5.0~5.5。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡常呂町字東浜開拓地 試坑No 常5

第1層	0~17cm	腐植を含む褐色(7.5YR4/3)のCL, 発達弱度の細粒状構造, ち密度1.0内外で疎, pH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	17~40	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/4)のLiC, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔を含む。ち密度2.3で中, pH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第3層	40~	腐植を欠く赤褐(5YR4/6)のHC, 発達弱度の塊状構造と薄片状構造を呈す。ち密度3.0で甚密, pH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~17	3.1	10.3	26.9	40.5	22.3	CL	2.73	0.16	17	4.6
2	17~40	5.8	13.8	19.6	37.9	28.7	LiC	0.99	0.05	20	1.7
3	40	4.7	18.6	12.5	9.4	59.5	HC	0.46	0.04	12	0.8

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.8	2.0	12.3	6.3	1.5	0.1	51.2	640	4.4
2	5.4	4.0	22.0	18.6	3.2	2.4	0.1	17.2	668	tr
3	5.4	4.0	63.0	17.4	3.5	4.4	0.3	20.1	990	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似または隣接する統としては岐阜統，福山統等があるが，岐阜統とは母材並びに乾湿の程度が異なり，福山統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質砂岩風化物）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

3°～7°の緩波状を呈する台地

C 気候

気候一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ，しばしば冷害凶作に見まわれる。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され牧草，麦類，馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層は緊密な盤層状を呈しているため時期的に軽度の停滞水を生じることがあるため軽度の排水が必要であり，また心土破砕の効果が特に期待される場所である。

腐植含量が少ないので堆厩肥，緑肥等有機物の施用が特に必要である。

F 分布 常呂郡常呂町字常呂，福山

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
能 取 西 - 能 取 西	III d II t p f n i s

② 土壌区別説明

能 取 西 - 能 取 西

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	表 土 層 の 粘 土 含 量	耕 土 層 の 乾 硬 性	表 土 層 の 乾 湿 性	透 水 性	保 水 性	自 然 沃 土 力	保 固 力	土 層 換 置 性	養 分 含 量	置 換 性	微 酸 性	酸 性	障 害 物 質 有 害 性	災 害 物 質 有 害 性	傾 斜 危 険 度	傾 斜 危 険 度	侵 入 斜 向 斜 度	耐 風 蝕 性																
t d g p		w	f	n										i	a	s	e																		
III	II	III	I	II	2	2	2	I	3	2	2	II	2	1	1	II	1	1	2	2	2	2	II	1	2	I	1	1	II	2	--	I	1	1	1
簡略分級式 III d II t p f n i s																																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は能取西統に属する。表土の厚さは15～17cmでやや浅く、有効土層は40cm内外で甚だ浅い。作土の土性は中粒質で粘着性中庸であるが、固結し易く耕起碎土にやや困難性を伴う。保水性中庸であるが下層盤層のため透水不良を示し一時的に軽度の停滞水を生ずるおそれがある。しかしやや傾斜を有するところは水の横の動きが行われるため比較的乾燥している。

保肥力中、磷酸固定力小、土層の塩基状態はやや良好で自然肥沃度はやや低い。作土は土壌改良資材の施用や土壌管理により養分含量が高められているが尚不充分で苦土、加里がやや少い。下層土は石灰、加里、磷酸等に欠乏し、酸性を呈する。地形は緩傾斜を呈するが侵蝕のおそれは少い。特殊の障害性は緊密、未風化な盤層が存在するため物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され主として牧草地になつているが、一部は麦類、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

緊密未風化な盤層が比較的浅く出現するから心土破碎により土層の風化と排水の円滑化を促進することが必要である。堆厩肥、緑肥等有機物の施用を怠らず磷酸、加里、苦土の施用に重点を置くことが望ましく、また酸性矯正未実施のところは当然石灰の施用が優先事項となる

D 分 布

常呂郡常呂町字常呂、福山

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）
日 付 昭和43年3月31日

浜 佐 呂 間 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量3～5%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度3、細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度13で疎、pH(H₂O) 6.5～5.5。下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量2%以下、土性はSiCが主である。柱状構造を呈し、一部発達弱度の塊状構造を有し細孔を含む。ち密度20～24で中、pH(H₂O) 5.5～5.7。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ10～15cmで腐植を欠き土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度2、明度7の場合が多い。柱状構造を呈し、細孔を含む。斑状の酸化沈積物に富み、ち密度25前後、pH(H₂O) 5.0～5.4。下層との境界は判然としている。

第4層は地表下40～50cmで腐植を欠き、土性はCが主である。色は7.5YRで彩度2、明度7の場合が多く、柱状構造を呈する。ち密度25～27で密であり、グライ化を呈する。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡常呂町字岐阜 試坑No 佐24

第1層	0～19cm	腐植を含む褐色(7.5YR4/3)のCL, 発達弱度の細粒状構造, ち密度13で疎, pH(H ₂ O)6.5。調査時の湿り半乾。境界直線明瞭。
第2層	19～32cm	腐植を欠く褐色(7.5YR4/6)のSiC, 大角柱状構造, ち密度24で中, pH(H ₂ O)5.7, 調査時の湿り半乾。境界波状漸変。

第3層	32~45 cm	腐植を欠く淡褐灰(7.5YR7/2)のLiC, 大角柱状構造, ち密度25で密, 斑状の酸化沈積物に富む。pH(H ₂ O)5.4。境界波状明瞭。
第4層	45~ cm	腐植を欠く淡褐灰(7.5YR7/2)のC, 大角柱状構造, ち密度26で密, 弱グライを呈し, 調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~19	1.3	5.3	33.6	40.4	20.7	CL	87.1	2.56	2.76	0.19	1.4
2	19~32	1.7	8.3	18.6	45.4	27.7	SiC	143.0	2.71	—	—	—
3	32~45	1.2	5.1	18.0	32.4	44.5	LiC	142.1	2.62	—	—	—

層位	腐 植 %	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.8	6.5	5.5	0.5	13.6	11.7	1.4	0.1	86.3	666	3.2
2	—	5.7	4.4	5.0	—	—	—	—	—	600	tr
3	—	5.4	4.2	8.5	10.5	5.5	4.3	0.2	52.1	714	tr

A-2 他の土壌統の関係

本統に隣接または類似する統としては岐阜東統, 福山統, 岐阜統等があるが, 岐阜東統, 福山統とは母材, 堆積様式が異り, 岐阜統とは腐植含量, 乾湿の程度が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰質粘土)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形

標高40~80mの緩傾斜を有する台地。

C 気 候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見舞われて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され, 牧草を主体とした飼料作及び馬鈴薯, ビート等が栽培されている。また一部は山林, 原野になつている。

E 農業上の留意事項

台地土壌であるが, 停滞水を一時的に生じるため排水不良を呈する場合が多いから暗渠排水未実施のところは組織的に完全な暗渠排水を実施することが必要であり, また下層は重粘堅密なため排水は比較的緩慢にしか行われないので, 心土破碎等の併用工事により暗渠排水の効果を十分に高める必要がある。

土壌は有機物含量が低く, 固結し易く構造不良で農作業に困難性を伴うので堆厩肥, 緑肥を充分施しながら漸次深耕して行くことが望ましい。

F 分 布 常呂郡常呂町字岐阜の大部分

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥(北海道立農業試験場)

日 付

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
浜佐呂間-浜佐呂間	IIIwII t p f n

② 土壤区別説明

浜佐呂間-浜佐呂間

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 厚 深 さ	有 効 土 層 厚 深 さ	耕 転 土 層 厚 深 さ	表 土 乾 燥 性	表 土 粘 着 性	表 土 乾 燥 性	土 層 乾 燥 性	透 水 性	保 水 性	自 然 肥 沃 度	固 定 力	養 分 含 量	置 換 性	石 灰 含 量	苦 土 含 量	加 里 含 量	磷 酸 含 量	微 酸 性	障 害 物 質 有 害 性	災 害 危 險 性	傾 斜 度	傾 斜 度	傾 斜 度	傾 斜 度	侵 蝕 性	耐 蝕 性							
t d g p				w			f			n								i		a							e						
III	II	I	I	II	2	2	3	III	3	2	2	II	1	1	2	II	1	1	3	2	2	2	I	1	1	I	1	1	I	1	1	1	1
簡略分級式		IIIwII t p f n																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は浜佐呂間統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50cm内外で中庸かもしくは浅い。保水性中庸であるが、下層重粘なため透水不良で停滞水を生じ排水不良を呈する場合が多く、過湿のおそれが多い。また春耕の乾燥期には一時的過干に陥り農作物の発芽障害を来す場合があるなど土壤水分調節に困難性を伴う土壤である。

肥力大、磷酸固定力中庸か小で、土層の塩基状態は不良で、自然肥沃度は中庸かもしくは低い。耕地においては肥培管理により養分含量はやや高められつつあるが、磷酸、加里含量が低い。また前墾地では磷酸に欠乏し、苦土、加里、石灰等の塩基に不足している。地形は緩傾斜を呈するが侵蝕のおそれはあまりなく、特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、牧草を中心とした飼料作物及び馬鈴薯、ビート等が栽培されている。また一部は山林、原野になつている。

C 地力保全上の問題点

一時的過干のおそれがあるが一般に過湿のおそれが多く、また下層重粘なため水の縦滲透、横滲透がかなり緩慢であるから暗渠排水の完全実施は勿論、暗渠排水の排水効果を高めるために心土破碎の併用が必要となる。土壤は腐植含量低く、固結し易い性質を有するので、堆厩肥、緑肥等の有機物を施用や、砂客土の実施によつて土壤構造の改善を図るかたわら石灰、苦土等の塩基の補給に努めることが肝要である。最近草地造成が制度的に進められ、新規草地時には心土破碎、炭カル施用等の土壤改良が行われているが、その後における草生維持については牧草に対する施肥をはじめ充分なる管理が特に必要である。

D 分 布 常呂郡常呂町字岐阜の大部分。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

豊 美 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10~15cmで腐植含量4~5%, 土性はCLが主である。色は10YRで彩度3, 明度2の場合が多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~19で疎, pH(H₂O) 5.5~5.7。下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量2%以下, 土性はCLが主である。未風化, 風化細小半角礫を含む。色は10YRで彩度2, 明度5の場合が多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む。ち密度25内外で密。pH(H₂O) 5.0~5.4。下層との境界は判然としている。

第3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き, 土性はLiCが主である。未風化, 風化細小半角礫を含む。色は10YRで彩度2, 明度7の場合が多い。大角柱構造を呈し, ち密度30前後で甚だ密。pH(H₂O) 5.2 前後。下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね40cm以下で腐植を欠き, 土性はHCが主である。色は7.5YR5/8と10YR7/2の混色で, 亀裂面は10YR7/2を呈する。大角柱状構造を呈するが, 全体として盤層状を呈する。ち密度30内外で甚密。

代表的断面形態

所在地 常呂郡常呂町字仁頃 試坑No. 仁10

第1層	0~13 cm	腐植を含む黒褐(10YR2/3)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度19で疎, pH(H ₂ O) 5.7, 調査時の湿り半乾。境界直線明瞭。
第2層	13~25 cm	腐植を欠く黄褐色(10YR5/2)のCL, 未風化, 風化細小半角礫を含む, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔を含む。ち密度25で密。調査時の湿り半乾境界判然。
第3層	25~40 cm	腐植を欠く淡黄褐灰のLiC, 未風化, 風化細小半角礫を含む, 柱状構造, ち密度29で甚だ密, pH(H ₂ O) 5.2, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第4層	40~ cm	腐植を欠く淡黄褐灰のHC, 大角柱状構造で盤層状を呈す。ち密度30で甚だ密。亀裂面はグライ化している。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~13	0.6	9.5	34.7	30.3	25.5	CL	1213	2.61	2.56	0.23	11
2	13~25	0.6	8.8	36.4	31.9	22.9	CL	1359	2.66	—	—	—
3	25~40	0.5	4.8	34.3	24.2	36.7	LiC	1499	2.52	—	—	—
4	40~	2.5	1.6	33.2	13.5	51.7	HC	1515	2.50	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.4	5.7	4.6	2.0	20.7	9.9	1.1	0.1	47.8	7.47	7.6
2	0.8	5.4	4.2	6.5	14.7	5.6	1.3	0.1	38.1	6.06	tr
3	—	5.2	4.0	14.0	19.0	8.1	3.3	0.2	42.6	6.26	tr
4	—	5.0	3.9	13.0	25.6	11.1	3.2	0.3	43.4	7.42	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては吉野東統，吉野南統，岐阜統等があるが，吉野東統とは堆積様式が異り，吉野南統とは母材が異り，岐阜統とは乾湿が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 凝灰質砂岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高 60~100m の波状性傾斜を有する台地。

C 気候

一般に冷涼であり，オホーツク海の気圧配量によりしばしば夏季に冷涼に過ぎることがあり冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 前後。春季強風が強い。

D 植生及び利用状況

大部分は耕地に利用され，馬鈴薯，ビート，豆類，牧草その他の飼料作物が栽培され，一部は山林，原野になっている。

E 農業上の留意事項

下層は重粘堅密なため透水不良となつて停滞水による排水不良を呈するから暗渠排水の完全実施は勿論のことこれに併用して心土破碎を実施することが特に必要である。

地形は緩傾斜～傾斜を有し，水蝕発生のおそれが多いから緑作帯，牧草栽培等による水蝕防止対策が必要である。

土壌は有機物含量が低く，固結し易く，磷酸，塩基に不足気味であるから堆厩肥，緑肥等の有機物施用は勿論，磷酸，塩基の補給が必要事項となる。

一般に草地に対する施肥が不十分であるから施肥することが望ましい。

F 分布 常呂郡常呂町字仁頃の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
豊 美 西 - 豊 美 西	III t d p w II f n i s e

② 土壌区別説明

豊美西 — 豊美西

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	土	養	置	(有	(微	(酸	障	(有	(物	(災	(増	(地	(傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐						
壤	効	効	土	土	土	土	地		然			然	層	分	換	"	"	効			害	理	冠	す	べ	斜	然	為	水	風									
生	土	土	の	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	障	害	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の			
産	の	の	の	の	の	の	の	の	乾	乾	乾	乾	沃	沃	基	灰	土	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾			
力	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
性	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	
等	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
級	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ
	t	d	g	p			w					f			n						i			a			s										e		
III	III	III	I	III	3	3	2	III	3	2	2	II	1	2	2	II	1	1	3	2	2	2	II	1	2	I	1	1	II	2	--	II	2	2	1				
簡略分級式		IIItdpwIIfnise																																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は豊美西統に属する。表土の厚さは10~15cmで浅く、有効土層は50cm以内で浅い。表土は中粒質であるが粘着性強く、かつ固結し易い性質を有するので耕起碎土はやや困難である。下層重粘で堅密なため停滞水を生じて排水不良を呈する反面乾期にはしばしば過干に陥る場合がある等土壤水分調節に困難を伴う土壤である。

肥力大、燐酸固定力中~小で土層の塩基状態は中庸かもしくは低い。燐酸、加里含量がやや低く、一般に塩基含量の低い土壤である。地形は緩傾斜~傾斜を有し水蝕発生のおそれがある。下層は未風化堅密層のため有効土層浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、豆類、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水の完全実施とともにこれに併用し心土破碎も実施することが肝要であり、有機物施用、石灰苦土等の塩基と燐肥の施用が望ましく、特草地造成時の場合は特に必要である。

畑地は緑作帯その他の方法により水蝕防止を構ずる必要があり、傾斜地は草地にすることが望ましい。

D 分 布 常呂郡常呂町字仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

岐 阜 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量8.0%内外、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度3のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.3前後で疎、pH(H₂O)5.5~5.9、下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度7~8。塊状構造で発達程度は弱度の場合が多い、細孔を含む。斑状の酸化沈積物を含み、ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.1前後。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ15~20cmで腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度7の場合が多い。大角柱構造を呈し、細小孔を含む。斑状、膜状の酸化沈積物を含み、亀裂面に粘土、腐植が被膜状に流下している。ち密度18~20で中、pH(H₂O)5.0~5.5。下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね45cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。色10YRで彩度1、明度7の場合が多い。盤層状を呈し、ち密度30前後で甚だ密で不透水層になっている。

代表的断面形態

所在地 常呂郡常呂町字岐阜 試坑No 佐26

第1層	0~24cm	腐植に富む黒褐(10YR ³ /1)のLiC, 発達弱度の細粒状構造, ち密度13で疎, pH(H ₂ O)5.9, 調査時の湿り半乾, 境界直線明瞭。
第2層	24~30cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR ⁶ /1)のLiC, 発達弱度の塊状構造, 細小孔を含む。斑状の酸化沈積物を含む。ち密度20で中, pH(H ₂ O)5.1, 調査時の湿り半乾, 境界漸変。
第3層	30~45cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR ⁷ /1)のLiC, 大角柱状構造, 斑状の酸化沈積物を含み, 構造亀裂面に粘土, 腐植の膜状流下が見られる。ち密度18で疎, pH(H ₂ O)5.3, 調査時の湿り湿, 境界漸変。
第4層	45~ cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR ⁷ /1)のCL, 盤層状を呈し, ち密度30で甚だ密。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~24	1.4	4.9	29.3	34.7	31.1	LiC	4.66	0.38	12	8.0
2	24~30	1.3	3.8	21.9	42.9	31.4	LiC	0.51	0.08	7	0.9
3	30~45	0.1	3.6	20.6	32.1	43.7	LiC	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.0	1.3	17.0	13.7	13.6	0.4	80.4	889	13.8
2	5.1	3.9	16.3	7.2	4.3	2.3	0.1	60.0	485	tr
3	5.3	3.9	15.0	13.3	6.8	5.1	0.2	51.4	800	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては浜佐呂間統, 岐東統, 富丘南統があるが、浜佐呂間統とは腐植含量, 乾湿の程度に差があり, 岐東統, 富丘南統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質粘土)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高40~50mの緩波状を呈する台地。

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見舞われて冷害凶作を受けることがある。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、牧草その他飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層堅密なため一時的に停滞水を生じて排水不良を呈するから暗渠排水未実施のところは完全な暗渠排水を実施するとともに心土破碎を併せて実施することが必要である。土壌はかなり有機物を含有するが固結し易い性質を有するから堆厩肥、緑肥等の有機物を施し漸次深耕し、石灰、苦土、加里等の塩基を補給することが望ましい。

F 分 布 常呂郡常呂町字富丘岐阜の大部分

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
岐 阜 一 岐 阜	III d p w II t f n i s

② 土壌区別説明

岐 阜 一 岐 阜

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	表 耕 土	表 土	表 土	土 地	透 水	保 湿	自 然	保 固	土 層	養 置	有 微 酸	障 有 物	災 增 地	傾 自 傾	侵 人 侵	耐 耐
効 土	土 土	土 土	土 土	土 土	土 土	然	然	層	層	換	効	効	害 害	冠 水	斜 然	為 水	風 耐
産 力	土 土	土 土	土 土	土 土	土 土	水 水	潤 肥	肥 定	塩 基	石 灰	苦 土	加 磷	害 質	的 害	の 危	傾 傾	蝕 蝕
可 能 性 等	の 層 磔	の 粘 土	の 乾 土	の 乾 土	乾 沃	沃	沃	沃	基 状	塩 基	石 灰	苦 土	加 磷	害 質	的 害	の 危	傾 傾
厚 深	含 難	土 着 硬	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力
級 級	さ 量	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e									
III	II III I III 3 3 2 III 3 2 2 II 2 2 2 II 1 1 2 1 2 2 II 1 2 I 1 1 II 2 -- I 1 1 1																
簡略分級式	III d p w II t f n i s																

A 土壌区の特徴

この土壌区は岐阜統に属する。作土の厚さは 20 cm 前後で中庸、有効土層は 50 cm 以内で浅い。下層下透水層のため停滞水を生じて一時的排水不良を呈する。土性細粒質で粘着性強く固結し易いため耕起碎土が困難である。保肥力、磷酸固定力とも中庸で、土層の塩基状態は未耕地は不良であるが、土壌改良資材の投入されているところは塩基含量が高められているため略中庸の程度を示す。有効態磷酸は耕地では土改資材の投入や施肥により中程度存在することが多いが未耕地で欠乏している。緩傾斜を呈す

るが水蝕のおそれは少い。有効土層浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

下層堅密のため透水不良となつて停滞水を生じ一時的過湿のおそれが多いため暗渠排水未実施のところは完全な暗渠排水と心土破碎の実施が特に必要であり、また堆厩肥、緑肥等の有機物の施用を行いながら漸次深耕して行くこと、更に石灰、苦土の塩基の施用も必要なことである。草地に対する施肥は当然必要事項となるし、草地造成の場合土地改良はもとより石灰、苦土等塩基の施用も欠かせない事項である。

D 分 布 常呂郡常呂町字富丘、岐阜の大部分

記載責任者 高尾 欽 弥(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

鑑 沸 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量5~7%, 土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度3~4。粒状構造で発達程度は中度である。ち密度1.0~1.5で疎, pH(H₂O)4.5~5.0, 下層との境界は波状漸変である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量2~3%, 土性はSが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5単粒構造である。ち密度8~10で頗る疎, pH(H₂O)5.4前後。下層との境界は漸変する。

第3層は地表下30~40cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色は7.5YRで彩度1、明度3の場合が多い。単粒構造, ち密度7~10で頗る疎, pH(H₂O)6.1前後。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡常呂町字岐阜 試坑No 佐37

第1層	3~20cm	腐植に富む黒褐(7.5YR ³ /2)SL, 発達中程度の粒状構造, ち密度1.2で疎 pH(H ₂ O)4.7, 調査時の湿り半乾, 境界漸変。
第2層	20~37cm	腐植を含む褐色(7.5YR ⁵ /6)のS, 単粒構造. ち密度8で頗る疎, pH(H ₂ O)5.4, 調査時の湿り半乾, 境界漸変。
第3層	37~ cm	腐植を欠く黒褐(7.5YR ³ /1)のS, 単粒構造, ち密度7で頗る疎, pH(H ₂ O)6.1, 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	8.6	63.8	15.6	15.2	5.4	SL	3.57	0.31	11	6.2
2	20~37	0.9	91.8	0.5	5.4	2.3	S	1.47	0.18	8	2.5
3	37~	1.6	97.8	1.3	0.9	0	S	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.7	4.0	9.5	12.1	0.7	0.5	0.2	5.8	330	7.4
2	5.4	4.5	4.8	6.5	0.6	0.5	0.1	9.2	182	29.9
3	6.1	4.9	0.8	2.7	0.6	0.4	0.1	22.2	82	tr

A-2 他の土壌統の関係

本統に隣接または類似する統としてはライトコロ統、土佐統等があるが、何れも母材が異なるので区別される。

A-3 母材 海砂

A-4 堆積様式 沖積（海成）

B 地形

海岸線に分布する波状緩傾斜を有する砂丘。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まわれ、しばしば冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃、年降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

殆んど山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

砂丘のため農耕地に利用される可能性は今後とも少く、防風防霧林の設置場所として利用されるが得策であろう。

F 分布 常呂郡海岸沿いに分布

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付

昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
鎧 沸-鎧 沸	III fn II t se

20で中, pH(H₂O)5.9~6.0。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20~30cmで腐植含量2%以下, 土性はSiCが主である。色は10YRで彩度3, 明度5の場合が多い。細塊状構造で発達程度は強度である。細小孔に富み中孔に富む。ち密度15前後で疎, pH(H₂O)6.1前後。下層との境界は漸変である。

第4層は地表下60cm内外以下で腐植を欠き, 土性はCが主である。色は10YRで彩度3, 明度6の場合が多い。細塊状構造で発達程度は強度であり, 細小孔に富み中孔にも富む。微弱な灰色斑を含む。ち密度13~15で疎。

代表的断面形態

所在地 常呂郡常呂町字日吉 試坑No 北57

第1層	0~20cm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/3)のCL, 発達中度の粒状構造, ち密度10で頗る疎, pH(H ₂ O)6.5, 調査時の湿り半乾, 境界直線明瞭。
第2層	20~35cm	腐植を含む灰黄褐(10YR5/3)のSiCL, 発達弱度の細塊状, 塊状構造, 細小孔を含む。ち密度19で疎, pH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第3層	35~60cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/3)のSiC, 発達強度の細塊状構造, 細小孔に富み, 中孔に富む。ち密度15で疎, pH(H ₂ O)6.1, 調査時の湿り半乾境界漸度。
第4層	60~ cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR6/3)のC, 発達強度の細塊状構造, 細小孔, 中孔に富む。ち密度13で疎, 微弱な灰色斑を含む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~20	3.0	0.3	37.5	42.7	19.5	CL	98.1	2.55	28.9	0.23	13
2	20~35	0.7	0.3	25.4	53.1	21.2	SiCL	106.5	2.58	1.60	0.21	8
3	35~60	0.7	0.9	16.3	53.9	28.9	SiC	85.1	2.67	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.0	6.5	5.4	0.5	26.5	18.3	5.9	1.2	69.1	8.24	18.1
2	2.9	5.9	5.0	0.8	20.0	15.3	3.0	0.5	76.5	9.29	21.3
3	—	6.1	5.2	0.8	30.3	22.6	5.8	0.4	74.6	10.90	19.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては岐阜統, 西口上統, 日吉東統があるが, 岐阜統とは母材, 堆積様式が異り, 西口上統とは乾湿が異り, 日吉東統とは乾湿の程度並びに土性に差があるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(古生層砂岩風化物)

A-4 堆積様式 沖積(河成堆積)

B 地形

河川流域の平坦地。

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれ冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃、年降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

殆んど耕地に利用されビート、馬鈴薯、菜豆、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

良好な沖積土壌であり特に問題点はない。

F 分 布

常呂郡常呂町の常呂川の流域に分布する。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
常呂川下流一常呂川下流	II t p

② 土壌区別説明

常呂川下流一常呂川下流

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	土	(養	置	(有	(微	(酸	障	(有	(物	(災	(増	(地	傾	(自	(傾	人	(侵	耐	耐		
壤	効	土	土	土	土	土	地	然	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	冠	す	水	り	の	の	斜	為	水	風	蝕	蝕
生	土	土	の	の	の	の	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	冠	す	水	り	の	の	斜	為	水	風	蝕	蝕
産	土	土	の	の	の	の	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	冠	す	水	り	の	の	斜	為	水	風	蝕	蝕
力	土	土	の	の	の	の	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	冠	す	水	り	の	の	斜	為	水	風	蝕	蝕
可	の	の	の	の	の	の	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	冠	す	水	り	の	の	斜	為	水	風	蝕	蝕
能	の	の	の	の	の	の	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	冠	す	水	り	の	の	斜	為	水	風	蝕	蝕
性	厚	含	難	土	着	の	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	冠	す	水	り	の	の	斜	為	水	風	蝕	蝕
等	深	含	難	土	着	の	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	冠	す	水	り	の	の	斜	為	水	風	蝕	蝕
級	さ	さ	量	易	性	性	さ	湿	性	性	度	度	力	力	態	否	量	素	度	性	性	性	性	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	
	t	d	g	p			w					f			n					i			a					s					e		
II	I	I	I	II	2	3	2	I	2	2	1	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1	1	1	1	1	1	
簡略分級式		II t p																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は常呂川下流統に属する。地土の厚さは 20cm 内外で中庸、有効土層は 1m 以上で深い。透水性中庸、保水性中庸で過湿過干のおそれは少い。表土の粘着性強く耕起碎土はやや困難性を伴う。

保肥力大、燐酸固定力中庸で土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。石灰、加里、苦土等の塩基含量高く、有効燐酸含量も高く養分含量は一般にやや多い方である。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、障害性、災害性も殆んど存在しない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地に利用されビート、馬鈴薯、菜豆、牧草その他が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

土壌の粘着性が強く耕起砕土に困難性を伴うから有機物を施用して土壌を膨軟にすることが望ましい。
また砂質土壌の客入等も一つの方法であらう。良好な沖積土壌でその他は特に問題はない。

D 分 布

常呂郡常呂町の常呂川の流域に分布

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

日 吉 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量2%内外, 土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度3, 明度4の場合が多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0で頗る疎, pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植を欠き土性はSが主である。色は7.5YRで彩度3, 明度5のものが多い。単粒構造を呈し, ち密度1.6~1.5で疎。下層との境界は漸変である。

第3層は地表下概ね25~40cm以下で腐植を欠き, 土性はS~SLである。色は7.5YRで彩度4明度5のものが多い。単粒構造を呈し, ち密度1.3~1.5で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡常呂町字日吉 試坑No. 北56

第1層	0~15 cm	腐植を含む褐色(7.5YR4/3)のSL, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.0で頗る疎, pH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り半乾, 境界直線。
第2層	15~25 cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/3)のS, 単粒構造, ち密度1.6で疎, 調査時の湿り半乾, 境界漸変。
第3層	25~50 cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/4)のS, 単粒構造, ち密度1.5で疎, 調査時の湿り湿。境界不規則。
第4層	50~ cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/4)のS, 単粒構造, ち密度1.6で疎, 調査時の湿り湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~15	4.6	11.4	26.3	32.8	29.5	LiC	1.14	0.08	14	2.0

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.1	0.3	21.0	8.6	1.5	0.7	40.9	680	14.4

A-2 他の土壌統との関係

A 土壤区の特徴

この土壤区は日吉東統に属する。作土の厚さは15～20cmで中庸、有効土層は1m以上で厚い。作土は粗粒質で粘着性弱く耕起砕土は容易である。保水性小さく透水過良なため過干のおそれがある。本区は礫質土壤が所々分布し、地表から礫の多いところも存在する。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態中庸である。各種の養分は比較的あるが土性粗粒質のため水分欠乏と施肥養分が流失し易い性状を有する。地形略々平坦侵蝕のおそれはなく、障害性、災害性、のおそれも少ない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、豆類、ビート、馬鈴薯、そん麦その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

過干のおそれがあるから植質土壤の客入や堆厩肥や緑肥等有機物の施入を図つて養水分の保持力を高めて行く必要がある。また肥切れのするところは分追肥を考慮すべきであろう。

D 分布

常呂郡常呂町字日吉の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

仁 倉 川 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量3～4%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度3～4、粒状構造で発達程度は中度である。ち密度1.0～1.5で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量1～2%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度はやや強度であり、ち密度1.5～1.8で疎、pH(H₂O)6.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10～20cmで腐植を欠き土性はLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔に富む。ち密度1.0～1.5で疎、下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下40～50cmで腐植を欠き、未風化細小中円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡常呂町仁倉 試坑No. 佐43B

第1層	0～22cm	腐植を含む暗褐色(7.5YR ³ /4)のLiC、発達中度の粒状構造、ち密度1.0で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	22～35cm	腐植あり褐色(7.5YR ⁴ /4)のCL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	35～48cm	腐植を欠く褐色(7.5YR ⁴ /4)のL、発達中度の細塊状構造、ち密度1.0で疎、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
第4層	48cm～	未風化細小中円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~2.2	2.3	7.6	38.0	26.2	28.2	LiC	1.86	0.23	8	3.2
2	2.2~3.5	2.2	8.9	48.5	24.3	18.3	CL	0.68	0.10	7	1.2

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	置換酸度 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.2	0.3	31.9	26.0	4.6	0.7	81.5	1.140	28.7
2	6.6	5.2	0.3	28.4	23.4	5.1	0.2	82.4	1.245	10.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、浜佐呂間統、西口上統等があるが、浜佐呂間統とは母材、堆積様式が異り、西口上統とは乾湿の程度に差が見られるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（赤色珪岩風化物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

常呂川支流の低平地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて畑には馬鈴薯、豆類、麦類、ビート、ハツカ等が栽培され、一部は水田になっている。

E 農業上の留意事項

特殊な問題点はない。堆肥、緑肥等有機物を施用しつつ漸次深耕して行くことが望ましい。一部地表から礫が多く出現し、また礫地が存在するから、かかるところは客土等が望ましい。

F 分布

常呂郡佐呂間町

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
仁 倉 川 - 仁 倉 川	II t d

② 土壌区別説明

仁倉川—仁倉川

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	土	透	保	湿	自	保	固	土	養	置	((有	微	酸	障	(有	物	災	傾	傾	自	傾	人	侵	耐		
壤	効	効	土	土	土	土	地				然			層	分	換	"	"	効			害	理	冠	す									
生	土	土	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐			害	質	障	の	の								
産	の	層	磔	の	粘	土	の	乾						基	灰	土	里	酸	要			害	物	的	害	の	の							
力	の	の	の	の	の	の	の	の	沃					状	豊	含	"	"	"				の	害	危	危	傾	傾						
可	厚	深	含	難	着	硬	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	性		無	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	性		
能	性	等	深	深	易	性	性	性	度	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	性		無	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	性		
級	さ	さ	量	易	性	性	性	度	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	性		無	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	性			
	t	d	g	p		w		f		n											i		a		s								e	
II	II	II	I	I	3	2	1	I	1	2	1	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	1	1		
簡略分級式		IItd																																

A 土壤区の特徴

この土壤区は仁倉川統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50cm内外で概ね中庸である。作土の土性は細粒質であるが、耕起、碎土はやや容易である。透水性大で保水性中庸、過湿、過干のおそれは少い。保肥力大、燐酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土の養分含量は比較的多い。下層の養分含量も比較的多い。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用されて馬鈴薯、ビート、豆類、ハツカその他の作物が栽培されている。また一部は水田耕作が行われている。

C 地力保全上の問題点

特殊な問題点はない。堆肥、緑肥等有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。局所的に礫が存在するが、かかるところは客土を実施し、或は重点的に有機物を施用することが望ましい。

D 分布

常呂郡常呂町
 記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
 日付 昭和43年3月31日

豊 川 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量3%内外、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度2、明度4の場合が多く、粒状構造で発達程度は弱度の場合が多い。ち密度10前後で疎、pH(H₂O)5.2~5.5。下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量2%以下、土性はSiCが主である。色は10YRで彩度2、明度4~5。細塊状構造で発達程度は強度で、細小孔に富む。斑状のマンガン酸化沈積物を含む。ち密

度15~18で疎, pH(H₂O)5.5~5.9。下層との境界は漸変である。

第3層は地表下40~50cm以下で腐植を欠き, 土性はSiCが主である。色は10YRで彩度2, 明度6~7。塊状構造で発達程度は中度であるが, 角柱構造をも呈する。細小孔を含み, 斑状の鉄の酸化沈積物に富む。ち密度19前後で中, pH(H₂O)5.5~5.8。

代表的断面形態

所在地 常呂郡常呂町字豊川 試坑No 佐54

第1層	0~22cm	腐植を含む黄褐灰(10YR4/2)のLiC, 発達弱度の粒状構造, ち密度12で疎, pH(H ₂ O)5.3, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	22~40cm	腐植を欠く黄褐灰(10YR5/2)のSiC, 発達強度の細塊状構造, 細小孔に富む, 斑状のマンガンの酸化沈積物を含む, ち密度18で疎, pH(H ₂ O)5.9, 調査時の湿り湿, 境界漸変。
第3層	40cm~	腐植を欠く黄褐灰(10YR6/2)のSiC, 発達中度の塊状構造と角柱構造を呈す, 細小孔を含む。斑状の鉄の酸化沈積物に富み, ち密度19で中, pH(H ₂ O)5.8, 調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~22	3.8	8.5	29.7	34.5	27.2	LiC	94.0	2.68	1.76	0.27	7
2	22~40	3.4	2.3	22.1	48.0	27.5	SiC	95.0	2.62	—	—	—
3	40~	4.8	0.1	21.4	50.1	28.4	SiC	91.2	2.64	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	3.0	6.2	5.3	0.80	26.6	16.7	2.4	1.8	62.7	1,020	20.4
2	—	5.9	5.0	0.8	27.4	18.3	6.9	0.7	66.7	1,390	14.1
3	—	5.7	4.8	2.0	27.5	15.8	8.8	0.5	57.3	1,280	3.4

A-2 他の土壌統の関係

本統に隣接または類似する統としては常呂川下流, 浜佐呂間統等があるが浜佐呂間統とは母材, 堆積様式が異り, 常呂川下流統とは乾湿が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(古生層砂岩, 赤色珪岩その他の風化堆積物)

A-4 堆積様式 沖積(河成堆積)

B 地形

常呂川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼でオホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれ, 冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され, 豆類, ビート, 馬鈴薯, 飼料作物等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

湿性を呈するから暗渠排水未実施のところは暗渠排水の完全実施が必要である。土壌は粘性，粘着性強く耕起碎土に困難を伴うので有機物を施して土壌の膨軟化を図るかまた可能であれば砂客土等が望ましい。

F 分 布

常呂郡常呂町豊川の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 4 3 年 3 月 3 1 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊 川 - 豊 川	III p II t w

② 土壌区別説明

豊 川 - 豊 川

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	表 土	耕 土	(表 土)	(表 土)	(表 土)	(透 水)	(保 湿)	(自 然)	(保 固)	(土 層)	(養 置)	(有 効)	(微 酸)	(障 害)	(災 害)	(傾 倒)	(侵 入)	(耐 風)
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 の 層 厚 深	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性	土 質 粘 土 着 性
III	t d g p	w	f	n	i	a	s	e											
	II I I III	3 3 2	II 3 3 2	I 1 2 1	I 1 1 1 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1
簡略分級式	III p II t w																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は豊川統に属する。表土の厚さは 2 0 cm内外で有効土層は 1 m内外で深い。表土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土はやや困難である。下層の透水性悪く，地下水位がやや高いため過湿のおそれがある。保肥力大，磷酸固定力中庸で土層の塩基状態はやや良好である。作土，心土とも養肥分は比較的多く，弱酸性を呈する。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され豆類，ビート，馬鈴薯，牧草その他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

土壌細粒質で粘着性強く耕起，碎土その他の農作業に不便を来す場合が多い，有機物の施用によつて土壌の膨軟化を図る必要がある。また一部は川砂を客入しているところがあるが，土性を粗くし粘着力を弱める点で意義があると考えられるので，組織的に川砂，海砂等の客入も一の方法であろう。

排水やや不良を呈するから組織的な暗渠排水が必要であり，排水未実施のところは完全な排水施工を

必要とする。

D 分 布

常呂郡常呂町の常呂川支流域の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 4 3 年 3 月 3 1 日

共 立 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量2%内外, 土性はCLが主である。色は10YRで彩度3, 明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5前後で疎, pH(H₂O)6.0内外, 下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量1%内外, 土性はCLが主である。色は10YRで彩度3, 明度5のものが多い。単粒構造で, ち密度1.5内外で疎, pH(H₂O)6.0前後, 下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ10~15cmで腐植含量1%以下, 土性はSLが主である。色は10YR7/2と7.5YR5/6のモザイク状を呈し, 発達弱度の細塊状構造を呈する。細小孔に富む。ち密度1.3前後で疎, pH(H₂O)6.0~6.3, 微弱な鉄の斑状酸化沈積物を含む。下層との境界は明瞭である。

第4層の厚さ20cm内外で腐植含量2%以下, 土性はCが主である。色は10YR7/2と7.5YR5/6のモザイク状を呈し, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む。微弱な鉄の斑状酸化沈積物を含む。ち密度1.5内外で疎, 下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下概ね65cm以下で 腐植含量2%以下; 土性はSLが主である。色は第4層と同じく10YR7/2と7.5YR5/6のモザイク状を呈し, 最下層は7.5Y5/2を呈する。無構造を呈し, 細中孔に富む。鉄の斑状酸化沈積物に頗る富み, マンガンの斑状酸化沈積物を含む。ち密度1.0~1.5で疎。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡常呂町字共立 試坑№ 51

第1層	0~22cm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/3)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.5で疎, pH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	22~32cm	腐植あり灰黄褐(10YR5/3)のSL, 単粒構造, 細小孔に富む。ち密度1.5で疎, pH(H ₂ O)6.0, 調査時の湿り半乾, 境界明瞭。
第3層	32~45cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)と明褐(7.5YR5/6)のモザイク状を呈するSL, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む。ち密度1.3で疎, pH(H ₂ O)6.3, 微弱な鉄の斑状酸化沈積物を含む。調査時の湿り湿, 境界明瞭。
第4層	45~65cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)と明褐(7.5YR5/6)のモザイク状を呈するC, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む。微弱な鉄の斑状酸化沈積物を含む。ち密度1.5で疎, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第5層	65~85cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)と明褐(7.5YR5/6)のモザイク状のSL, 無構造を呈し, 細中孔に富む。鉄の斑状酸化沈積物に頗る富み, マンガンの斑状酸化沈積物を含む。ち密度1.5で疎, 調査時の湿り湿, 境界漸変。
第6層	85cm~	腐植を欠く黄灰(7.5Y5/2)のSL, 無構造, ち密度1.0で疎, グライ化を呈す。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~22	1.8	4.7	53.5	19.4	22.4	CL	1.37	0.15	9	2.4
2	22~32	2.7	9.7	67.0	11.1	12.2	SL	0.52	0.08	7	0.9
3	32~45	1.4	4.8	64.0	17.1	14.1	SL	-	-	-	-

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.7	2.5	21.0	14.4	4.6	0.7	68.6	755	10.6
2	6.0	4.9	0.5	19.1	12.0	4.1	0.2	62.8	721	9.0
3	6.3	4.7	1.3	20.7	12.6	4.3	0.3	60.9	767	11.0

A-2 他の土壌統の関係

本統に隣接または類似する統としては福山南統，日吉東統，豊川統等があるが，福山統とは母材，堆積様式が異り，日吉南統，豊川統とは夫々乾湿の程度に差があるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（砂岩，夏岩風化物）

A-4 堆積様式 沖積（河成堆積）

B 地 形

常呂川流域の低平地。

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見舞われて冷害を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，豆類，ビート，馬鈴薯，飼料作物等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

排水未施工地にあつては組織的な暗渠排水の実施が必要であり，砂質の甚しいところは埴質土壌の客入も必要であろう。

F 分 布

常呂郡常呂町，常呂川流域の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
共 立 東-共 立 東	III w II t

② 土壌区別説明

共立東一 共立東

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	(土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	(養	(置	(有	(微	(酸	障	(有	(物	災	(増	(地	傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐	
壤	生	土	効	土	土	土	土	地	然	層	分	換	の	性	態	量	害	理	物	的	障	害	冠	す	べ	り	の	危	傾	傾	方	水	風
産	土	土	土	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	質	障	の	の	の	の	傾	傾	方	水	風		
力	の	層	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	質	障	の	の	の	の	傾	傾	方	水	風			
可	の	層	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	質	障	の	の	の	の	傾	傾	方	水	風				
能	の	層	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	質	障	の	の	の	の	傾	傾	方	水	風				
性	厚	の	含	難	土	着	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃		
等	深	の	含	難	土	着	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃		
級	さ	さ	量	易	(性)	(性)	さ	性	性	度	度	力	力	態	量	()	()	()	()	素	度	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	性		
	t	d	g	p			w					f			n					i			a			s				e			
III	II	I	I	I	1	1	2	III	1	1	3	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	1	
簡略分級式		IIIwII t																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は共立東統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層1m以上で深い。作土の土性は中粒質で粘着性やや小さく耕起碎土は容易である。保水性中〜小で透水性も比較的よいが、地下水位がやや高いため排水不良を呈する。

保肥力大、燐酸固定力やや小で土層の塩基状態は良好である。作土の養分含量は比較的多く、下層土もやや多い方である。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、豆類、ビート、馬鈴薯、飼料作物等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物含量少く排水不良を呈するから排水未施工のところは完全な暗渠排水の実施が必要である。一般に有機物を施用しながら漸次深耕することが望ましい。

D 分布

常呂郡常呂町、常呂川流域の一部

記載責任者

日付 昭和43年3月31日

西 口 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度2、明度3のものが多。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10内外で疎、pH(H₂O)6.0~6.7。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度7の場合が多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。雲状、斑状の鉄の酸化沈積物に富む。ち密度

15～18で疎，pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植含量2%以下，土性はS～SLである。色は10YRで彩度2，明度7の場合が多い。単粒構造を呈し，雲状，斑状の鉄の酸化沈積物に富む。ち密度15内外で疎，下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね65cm以下で腐植含量2%以下，土性はS～SLである。色は10YRで彩度2，明度5の場合が多い。単粒構造を呈し，雲状，斑状の酸化沈積物を含む。ち密度10～15で疎。

代表的断面形態

所在地 常呂郡常呂町字岐阜 試坑No 佐46

第1層	0～22cm	腐植あり黒褐(10YR3/2)のLiC，発達弱度の細粒状構造，ち密度12で疎，pH(H ₂ O)6.7，調査時の湿り半乾，境界平坦明瞭。
第2層	22～35cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のCL，発達弱度の細塊状構造，細小孔を含む。雲状，斑状の酸化沈積物に富む。ち密度15で疎，pH(H ₂ O)6.0調査時の湿り湿，境界平坦明瞭。
第3層	35～65cm	腐植を欠く黄褐灰(10YR6/2)のS，単粒構造，雲状，斑状の酸化沈積物に富む，ち密度17で疎，調査時の湿り湿，境界漸変。
第4層	65cm～	腐植を欠く黄褐灰(10YR5/2)のS，単粒構造，雲状，斑状の酸化沈積物を含む，ち密度18で疎，調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～22	1.5	5.9	21.4	33.1	39.6	LiC	0.78	0.09	9	1.3
2	22～35	2.0	1.6	47.2	29.5	21.7	CL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.7	5.8	0.3	25.2	13.9	5.0	0.4	55.1	7.67	8.0
2	6.0	5.0	0.5	23.9	14.3	4.6	0.35	59.8	1.440	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似の統としては土佐西，岐阜東，土佐統等があるが，土佐西統とは湿性の程度が異なり，岐阜東統とは母材，堆積様式が異なり，土佐統とは母材が異なるので夫々本統と異なる。

A-3 母材 非固結水成岩(砂岩，頁岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形

ライトコロ川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃，年間降水量800mm内外

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯，ビート，麦類，豆類等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地下水位がやや高いため排水不良を呈するから暗渠排水未実施のところは完全な暗渠排水の実施が特に必要であり、土壌は土性細かく粘着大で有機物に不足しているから堆肥、緑肥等の施用によって土壌の膨軟化と地力を更に増進することが望ましい。

F 分布

常呂郡常呂町字西口

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
西 口 - 西 口	II t p w f

② 土壌区別説明

西 口 - 西 口

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 厚 深	表 土 質 粘 着 性	表 土 質 粘 着 性	土 質 粘 着 性	透 水 性	自 然 潤 滑 度	保 固 力	養 分 状 態	置 換 性	有 機 質 含 量	酸 性 度	障 害 性	災 害 性	傾 斜 度	傾 斜 度	傾 斜 度	侵 蝕 性	耐 風 蝕 性	
t d g p		w		f		n													
II	I I I	3 3 2	II	1 2 2	II	1 2 2	I	1 1 1	2 1 1	I	1 1	I	1 1	I	1 1	I	1 1	I	1 1 1
簡略分級式 II t p w f																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は西口統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土はやや困難性をともなう。透水性は良好であるが、地下水位が高いため過湿のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は中庸である。有効態磷酸含量はやや低いが、他の養分は比較的多い。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、麦類、豆類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

排水未実施のところは暗渠排水の完全実施が必要である。堆肥、緑肥等有機物の施用を行つて地力の増進を図るかたわら土壌の粘着性を軽減して耕起碎土を容易にすることが望ましい。

D 分 布

常呂郡常呂町ライトコロ川の流域に分布。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

西 口 上 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量5%内外, 土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度2, 明度3~4, 細粒状, 粒状の複合構造で発達程度は中度である。ち密度1.1~1.5で疎, pH(H₂O)6.1前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量3~5, 土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度2, 明度4の場合が多い。粒状構造で発達程度は中~強度で, 細小孔に富む。ち密度1.5~1.8で疎, pH(H₂O)5.8前後。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ30~40cmで腐植含量2%以下, 土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度3, 明度5の場合が多い。発達強度の細塊状構造並びに柱状構造を呈し, 細小孔に富む。雲状, 管状の酸化沈積物に富む。ち密度2.2前後で中, pH(H₂O)6.1。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下概ね65cm以下で腐植を欠き, 土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4, 明度7。塊状構造で発達程度は弱度である。雲状, 管状の酸化沈積物に富む。ち密度1.8~2.0で中。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡常呂町字豊川 試坑No. 佐55

第1層	0~20 cm	腐植に富む黒褐(7.5YR3.5/2)のLiC, 発達中度の細粒状, 粒状の複合構造, ち密度1.1で疎, pH(H ₂ O)6.1, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭
第2層	20~30 cm	腐植を含む褐灰(7.5YR4/2)のLiC, 発達強度の細塊状構造, 細小孔に富む。ち密度1.5で疎, pH(H ₂ O)5.8, 調査時の湿り半乾, 境界漸変。
第3層	30~65 cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR5/3)のLiC, 発達中度の細塊状構造及び柱状構造を呈し, 細小孔に富む, 雲状, 管状の酸化沈積物に富み, ち密度2.2で中, pH(H ₂ O)6.1, 調査時の湿り湿, 境界漸変。
第4層	65 cm~	腐植を欠く灰褐(7.5YR7/4)のCL, 発達弱度の塊状構造, 雲状, 管状の酸化沈積物に富む。ち密度1.8で疎, 調査時の湿り湿。1m以下は青灰色のグライ層になる。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~20	3.0	0.4	14.9	43.9	40.8	LiC	8.15	2.59	2.88	0.34	8
2	20~30	5.2	0.9	13.7	42.4	42.9	LiC	—	—	2.23	0.25	9
3	30~65	3.6	0.5	20.7	48.8	30.1	LiC	—	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.0	6.1	5.3	0.5	33.8	23.4	6.2	1.9	69.2	1,110	14.8
2	3.8	5.8	4.9	0.5	32.1	21.5	6.7	0.8	67.0	1,250	8.1
3	—	6.1	5.1	0.8	25.8	17.9	7.9	0.6	69.6	1,190	7.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似の統としては豊川統，土佐統，共立統等があるが，豊川統とは湿性の程度が異なり，土佐統とは母材に差異が見られ，共立統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（砂岩，頁岩風化物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

小河川の流域に分布する低平地。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば低温に見まわれ，冷害凶作を受けることがある。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯，豆類，ビート，麦類等の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地下水位が高いため排水不良を呈するから排水未実施のところは暗渠排水の完全実施が必要である。

F 分布

常呂郡常呂町豊川の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
西 口 上 - 西 口 上	III w II p

② 土壌区別説明

西口上—西口上

示 性 分 級 式 (畑)

土壌	有効土	表土	耕土	(表土)	(表土)	(表土)	(土)	(透)	(保)	(湿)	(自)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(有)	(物)	(災)	(増)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)						
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の					
性	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の					
厚	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の					
等	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深					
級	さ	さ	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易					
	t	d	g	p			w				f			n					i		a		s					e								
Ⅲ	I	I	II	3	3	2	III	3	2	3	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	1					
簡略分級式		IIIwIIp																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は西口上統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土にやや困難を感じる。透水性やや悪く地下水の影響を受けて排水不良を呈する。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は良好で自然肥沃度はやや高い。作土の養分含量は比較的高く地味は良好の部に属する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、麦類、豆類が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

排水未施工のところは完全な暗渠排水の実施が必要である。作土の養分含量は高く地味良好であるが、粘着性大なるため耕起碎土に困難性を伴うから堆厩肥、緑肥等有機物の施用回り、或は砂質土壌の客入等が望ましい。

D 分布

常呂郡常呂町字豊川の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

ラ イ ト ロ コ 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量10%前後。土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2の場合が多い。粒状構造で発達程度は弱度であるち密度10前後で疎pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植2~3%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度2、明度7

の場合が多い。細塊状構造で発達程度は中程度で、細小孔を含む。ち密度20で中、pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は波状明瞭である。

第3層は地表下概ね30cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色はNで明度3である。単粒構造を呈し、ち密度5~10で頗る疎である。

代表的断面形態

所在地 常呂郡常呂町鑛沸 試坑No 佐38

第1層	0~23cm	腐植に頗る富む黒色(10YR ² /1)のCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度10で疎, pH(H ₂ O)4.9, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第2層	23~30cm	腐植を含む淡黄灰(10YR ⁷ /2)のLiC, 発達中程度の細塊状構造, ち密度20で中, pH(H ₂ O)4.9, 雲状の酸化沈積物あり, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第3層	30cm~	腐植を欠く灰黒(N ³ /0)のS, 単粒構造, ち密度5で頗る疎, 調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~23	3.3	45.9	13.6	18.1	22.4	CL	6.16	0.49	13	10.6
2	23~30	1.9	30.6	7.9	29.0	32.5	LiC	1.35	0.14	10	2.3

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.9	4.0	11.0	16.1	3.9	1.8	0.2	24.2	433	11.2
2	4.9	4.0	26.0	17.4	3.6	3.6	0.4	20.7	531	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては鑛沸統, 岐阜統, 土佐統等があるが, 鑛沸統とは母材が異り, 岐阜統とは母材, 堆積様式に差異があり, 土佐統とは母材, 乾湿に差異があるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(砂岩, 頁岩, 砂層)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B ライトコロ川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まれて冷害凶作を受けることがある。年平均気温5.6℃, 年間降水量800mm内外。

D 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯, 豆類, 麦類等が栽培されているが, その他は林地或は原野になっている。特に局部的に存在する極非水不良地は原野のまま放置されている。

E 農業上の留意事項

川低が浅く充分な排水が出来かねるところもあるが, 排水可能なところは完全な排水が特に必要であり, 次いで酸性矯正, 加里の増施が必要である。

F 分 布

常呂郡常呂町字鑑沸の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
ライトコローライトコロ	II twfn

② 土壌区別説明

ライトコローライトコロ

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 厚 等 級	表 土 層 の 含 深 さ	表 土 層 の 粘 土 着 性	表 土 層 の 乾 硬 さ	透 水 性	保 水 性	自 然 肥 沃 度	固 定 塩 基 状 態	養 分 換 取 性	置 換 性 石 灰 土 含 量	微 酸 性 有 害 物 質 有 害 性	障 害 物 質 有 害 性	災 害 的 危 險 性	傾 斜 傾 斜 傾 斜	侵 蝕 傾 斜 傾 斜	耐 蝕 性
t d g p		w		f		n				i	a	s	e		
II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	I	I	I	I	I	I
簡略分級式 II twfn															

A 土壌区の特徴

この土壌区はライトコロ統に属する。表土（作土）の厚さは20cm内外で中庸，有効土層は1m内外で深い。作土の土性は中粒質，粘着性中庸で耕起砕土は容易である。透水性良好で保水性中庸であるが地下水位にやや高いため過湿のおそれがあり，一部は過湿のおそれが多い。

保肥力中，磷酸固定力小で土層の塩基状態は不良で自然肥沃度はやや低い。置換性石炭，加里がやや少く，酸性を呈する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく，特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯，豆類，麦類等が栽培され，他は山林もしくは原野になっている。

C 地力保全上の問題点

河川の川底が高く完全な排水が不可能なところは当然川底を下げる河川改修が必要となるが，排水可能なところは完全な排水を要する。次いで酸性矯正，加里の増施等が必要となる。海浜に分布するため潮風の影響が強く一般作物の栽培は経済的に問題があり，牧草栽培を中心とした草地農業が推進されるべきであろう。

D 分 布

常呂郡常呂町鑑沸の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

日 吉 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18~20cmで腐植含量5~6%, 土性はSiCL が主である。色は7.5YRで彩度3, 明度4~5, 粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0~1.5で疎, pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2~3%, 土性はSiCL が主である。色は7.5YRで彩度2, 明度7の場合が多い。発達弱度の細塊状構造, 細小孔を含む。雲状, 管状の酸化沈積物に富む。ち密度1.8前後で中, pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き, 土性はSiC が主である。色は7.5YRで彩度2, 明度7の場合が多い。均質連結状構造で大亀裂あり, 雲状の酸化沈積物あり, ち密度1.5前後で疎, pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は厚さ10~15cmで, ヨシ, ハンノキからなる分解良好な亜泥炭, ち密度6~1.0で頗る疎, 下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下概ね70~80cm以下で腐植を欠き, 土性はCが主である。色は5Yで彩度1, 明度5の場合が多く, 均質連結状構造を呈す。ち密度7~1.0で頗る疎, グライを呈す。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡常呂町字日吉 試坑No. 北67

第1層	0~18 cm	腐植に富む褐色(7.5YR4/3)のSiCL, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.0で疎, pH(H ₂ O)6.2, 調査時の湿り半乾, 境界平坦明瞭。
第2層	18~40 cm	腐植に含む淡褐灰(7.5YR7/2)のSiCL, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔を含む, 雲状, 管状の酸化沈積物に富む, ち密度1.8で疎, pH(H ₂ O)5.5 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第3層	40~60 cm	腐植を欠く淡褐灰(7.5YR7/2)のSiC, 均質連結状構造で大亀裂あり, 雲状の酸化沈積物あり, ち密度1.5で疎, pH(H ₂ O)5.5, 調査時の湿り湿 境界波状明瞭。
第4層	60~75 cm	黄灰(5Y5/1)を呈するヨシ, ハンノキを主材とした分解良好な亜泥炭, ち密度6で頗る疎, 調査時の湿り潤, 境界波状明瞭。
第5層	75 cm~	腐植を欠く黄灰(5Y5/1)のC, 均質連結状構造, ち密度7で頗る疎, 調査時の湿り潤, グライを呈す。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 粗 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~18	2.3	1.1	23.1	51.8	24.0	SiCL	2.99	0.27	1.0	5.2
2	18~40	1.9	0.2	24.2	53.0	22.6	SiCL	3.35	0.30	1.1	2.9
3	40~60	2.9	0.3	10.4	52.7	36.6	SiC	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.1	0.8	29.4	21.8	5.4	0.7	74.1	1,120	15.4
2	5.5	4.5	3.5	28.2	15.2	4.3	0.2	53.9	1,160	6.1
3	5.5	4.4	6.5	30.4	15.7	6.2	0.2	51.6	1,220	15.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似の統としては常呂川下流統，日吉南統等があるが，常呂川下流統とは乾湿が異り，日吉南統と堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（砂岩，頁岩風化物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

常呂川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツクの気圧配置によりしばしば夏季低温に見まわれ冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，麦類，馬鈴薯，ビート，豆類その他の作物が栽培される。

E 農業上の留意事項

地下水位高くまた山地からの滲透水の影響も加つて極く排水不良を呈するから排水未施工のところは幹線明渠並びに暗渠排水の完全な実施が必要であり，作土は土性細く粘着性大で耕起碎土に困難性を伴うから堆肥，緑肥等有機物の施用もしくは砂質土壌の客入等により土壌の粘着性や碎土の困難性を緩和せしめることが望ましい。

F 分布

常呂郡常呂町日吉の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
日 吉 北 - 日 吉 北	IVw II t p

② 土壌区別説明

日吉北一日吉北

示性分級式(畑)

	土表	有効	表土	耕土	(表土)	(表土)	(透土)	(保地)	(湿然)	自保	(固土)	養置	(有微)	(酸障)	(有物)	(災增)	(傾地)	(傾自)	(傾人)	(侵耐)	(耐風)	
	壤生	土	土	土	土	土	地		然		層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	水
	力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
	可	能	性	厚	等	性	厚	等	性	厚	等	性	厚	等	性	厚	等	性	厚	等	性	厚
	級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
		t	d	g	p		w		f		n				i		a		s		e	
IV		II	I	I	II	3	3	2	IV	3	2	4	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1
簡略分級式		IVwIItp																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は日吉北統に属する。作土の厚さは18~20cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で、粘着性強く耕起碎土はやや困難である。透水性不良で地下水位高く過湿のおそれが甚しい。

肥力大、固定力中で土層の塩基状態はやや良好である。有効態磷酸、置換性塩基はやや多く作土の養分含量は比較的高い。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、麦類、豆類等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

排水未施工のところは完全な暗渠排水の実施が特に必要であり、大明渠の設置も必要である。また堆肥、緑肥等有機物を施して地力を更に高める一方砂質土壤の客入は耕起碎土を容易ならしめることが望ましい。

D 分布

常呂郡常呂町日吉の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

福 山 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は30~20cmで腐植含量10~13%、土性はSiCが主である。色は5YRで彩度3、明度3の場合が多く、ち密度8~10で頗る疎である。pH(H₂O)4.7前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmでヨソ、ハンノキを主材とする珪泥炭、色は5YRで彩度3、明度2、ち

密度 8 ~ 10 で頗る疎である。pH(H₂O) 4.4~4.6, 下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ 20 cm 内外でヨシを主材とする分解良好な亜泥炭, 色は 5Y で彩度 1, 明度 5 の場合が多い。ち密度 8 ~ 10 で頗る疎, 下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下概ね 60 ~ 70 cm 以下でヨシを主材とする分解不良な低位泥炭からなる。色は 5Y で彩度 1, 明度 4 を呈する場合が多い。地表下 60 cm 内外で湧水する。

代表的断面形態

所在地 常呂郡常呂町 試坑 No. 佐 56

第1層	0~30 cm	腐植に頗る富む黒赤褐(5YR ³ /3)のSiC, 発達弱度の粒状構造, ち密度 8 で頗る疎, pH(H ₂ O) 4.7, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第2層	30~45 cm	ヨシ, ハンノキからなる分解良好な亜泥炭, 暗赤褐(5Y2/3)のSiC, ち密度 8 で頗る疎, pH(H ₂ O) 4.4, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第3層	45~65 cm	黄灰(5Y5/1)のヨシからなる分解良好な亜泥炭, ち密度 8 で頗る疎, 調査時の湿り潤。
第4層	65 cm ~	黄灰(5Y4/1)のヨシからなる分解不良な泥炭, 調査時の湿り潤, 60 ~ 70 cm で湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~30	4.6	1.3	18.7	46.1	33.9	SiC	7.74	0.67	12	13.3
2	30~45	4.3	0.2	9.5	51.9	38.4	SiC	15.30	1.17	13	26.4

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.7	3.9	2.48	33.7	8.6	1.5	0.7	25.6	1.006	5.0
2	4.4	3.7	2.75	50.4	12.5	2.1	0.6	24.8	2.580	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似としては豊川統, 福山南統, 吉野東統等があるが, 豊川統とは母材, 乾湿に差異が見られ, 福山統, 吉野東統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(砂岩, 頁岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形

常呂川流域の低平地。

C 気候

一般に冷涼で, オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃, 年間降水量 800 mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯, ビート, 豆類, 麦類その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地下水位高いため排水極く不良を呈するから排水未施工のところは組織的に完全な暗渠排水を実施す

る必要がある。次いで酸性矯正を要する。

F 分 布

常呂郡常呂町福山の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
福 山一福 山	IVw III f II pn

② 土壌区別説明

福 山一福 山

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(土	(透	(自	(保	(固	(土	(養	(置	(有	(微	(酸	(障	(有	(物	(災	(傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐			
壤	効	土	土	土	表	表	地	水	然	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	障	害	冠	水	斜	斜	為	水	風	耐	耐		
生	土	土	の	の	の	の	の	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	障	害	冠	水	斜	斜	為	水	風	耐	耐		
産	土	土	の	の	の	の	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	障	害	冠	水	斜	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
力	の	の	の	の	の	の	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	障	害	冠	水	斜	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
可	層	層	粘	土	乾	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	障	害	冠	水	斜	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
能	の	の	粘	土	乾	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	障	害	冠	水	斜	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	
性	厚	含	難	土	着	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃
等	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
	t	d	g	p			w			f			n					i		a		s			e						
IV	I	I	I	II	3	2	2	IV	1	3	4	III	1	2	3	II	1	1	1	2	2	3	I	1	1	I	1	1	I	1	
簡略分級式		IVw III f II pn																													

A 土壌区の特徴

この土壌区は福山統に属する。作土の厚さは30cm内外でやや深く、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く耕起碎土はやや困難である。透水性はやや大であるが地下水水位高いため過湿のおそれが甚だしい。保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。可給態磷酸がやや低く、酸性を呈する。下層は置換性塩基と磷酸に欠乏している。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

甚だ基礎的事項であるが排水未施工は完全な明渠、暗渠排水の実施と酸性矯正が必要である。

D 分 布

常呂郡常呂町字福山の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

土 佐 西 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ30cm内外で腐植含量20%前後、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度2、明度2の場合が多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度9~10で頗る疎、pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20~30cmで腐植含量7~8%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度7の場合が多い。均質連結状構造を呈す。ち密度12で疎、pH(H₂O)3.6~4.0、管状の酸化沈積物に富む。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下概ね60cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。色は7.5Yで彩度1、明度5の場合が多い。均質連結状で管状の酸化沈積物に富む。ち密度10~11で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 常呂郡常呂町字豊川 試坑No 佐55B

第1層	0~30 cm	腐植に頗る富む黒褐(7.5YR2/2)のLiC, 発達弱度の細粒状構造, ち密度9で頗る疎, pH(H ₂ O)5.0, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。
第2層	30~60 cm	腐植に富む褐色(7.5YR4/4)のLiC, 均質連結状構造, 管状の酸化沈積物に富む, ち密度12で疎, pH(H ₂ O)3.6, 調査時の湿り湿, 境界波状漸変。
第3層	60 cm~	腐植を欠く黄灰(7.5Y5/1)のC, 均質連結状構造, 管状の酸化沈積物に富む, ち密度11で疎, 調査時の湿り潤。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~30	4.2	1.7	27.7	34.5	36.1	LiC	11.39	0.83	13	19.6
2	30~60	3.6	1.8	27.4	31.4	39.4	LiC	4.31	0.42	10	7.4

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.0	4.2	8.0	40.6	16.8	1.2	1.4	41.4	1.830	21.7
2	3.6	3.4	27.6	21.9	6.2	2.6	0.5	28.3	1.330	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接または類似する統としては共立統, 西口統, 豊川統等があるが, 共立統とは堆積様式が相違し, 西口統, 豊川統とは夫々乾湿の程度が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(砂岩, 頁岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 常呂川流域の低平地。

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

排水不良を呈するから排水未施工のところは完全な明渠、暗渠排水の実施と更に酸性矯正、苦土の施用等が必要である。

F 分 布

常呂郡常呂町字豊川の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 4 3 年 3 月 3 1 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
土 佐 西 - 土 佐 西	IVwIIpfn

② 土壌区別説明

土 佐 西 - 土 佐 西

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	土	養	置	(有	(微	(酸	障	(有	(物	災	(増	(傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐
壤	効	土	土	耘	土	土	地					然			層	分	換	"	"	効		害	理	冠	す		斜	然	為	水	風	
産	土	の	の	の	の	乾	水	潤	肥	定	塩	基	灰	石	苦	加	燐			害	質	障	害	の	危	危	傾	方	傾	蝕	蝕	
力	層	礫	粘	土	着	硬	乾	沃				沃	状	豊	含	"	"	"			要		害	の	危	危	傾	方	蝕	蝕		
可	の																															
能	厚	深	性	性	性	性	性	度	度	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	
等	深	深	性	性	性	性	性	度	度	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	
級	さ	量	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	
	t	d	g	p			w			f			n								i			a		s			e			
IV	I	I	I	II	3	2	2	IV	3	3	4	II	1	3	2	II	1	2	1	1	1	2	I	1	1	I	1	1	I	1		
簡略分級式	IVwIIpfn																															

A 土壌区の特徴

この土壌区は土佐西統に属する。作土の厚さは 30cm 内外でやや深く、有効土層は 1m 以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土はやや困難である。透水性中庸であるが地下水位が高いため過湿のおそれが多い。

保肥力大、燐酸固定力大で土層の塩基状態は中庸である。作土は苦土がやや少く酸性を呈し、下層土は石灰、燐酸に欠乏し、強酸性を呈する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

排水未施工は完全な明渠、暗渠排水の実施が必要で、更に酸性矯正、苦土の施用等が必要である。また冷害対策として磷酸の増施も望ましい。

D 分 布

常呂郡常呂町字豊川の一部

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

土 佐 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量8%内外、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度2の場合が多い。粒状構造で発達程度は弱度～中度である。ち密度1.0前後で疎、pH(H₂O)5.5～6.0、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量2～3%、土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度5～6、明度6、細塊状構造で発達程度は弱度で細小孔に富む。ち密度1.6～1.8で疎、pH(H₂O)5.2～5.5、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はSが主である。色は1.0YRで彩度3、明度7の場合が多い。単粒構造、ち密度1.7～1.8で疎、pH(H₂O)5.0～5.5、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下60cm内外以下で腐植を欠き、土性はS～Lである。色は1.0YRで彩度3、明度7の場合が多い。単粒構造～発達弱度の塊状構造を呈し、ち密度1.5～1.7で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡常呂町字土佐 試坑46佐50

第1層	0～23cm	腐植に富む黒褐(7.5YR2/2)のCL、発達中度の粒状構造、ち密度1.0で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	23～40cm	腐植を含む明褐(7.5YR5/6)のSL、発達弱度の粒状構造、細小孔に富むち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	40～60cm	腐植を欠く灰黄橙(1.0YR7/3)のS、単粒構造、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第4層	60cm～	腐植を欠く灰黄橙(1.0YR7/3)のSとCLの互層、単粒または発達弱度の塊状構造、ち密度1.5で疎、調査時の湿り湿～潤、80cm以下は管状の酸化沈積物に富む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~23	3.0	5.9	40.9	28.4	24.8	CL	4.82	0.43	11	8.3
2	23~40	0.6	27.4	42.6	14.7	15.3	SL	1.35	0.12	11	2.3
3	40~60	1.0	56.2	32.3	4.7	6.8	S	-	-	-	-

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.0	1.0	32.6	21.7	3.5	1.3	66.6	7.67	22.7
2	5.2	4.3	10.8	13.6	5.0	1.3	0.6	36.8	7.55	2.0
3	5.2	4.2	11.5	6.6	2.5	1.5	0.6	37.9	7.21	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては豊川統，土佐西統，常呂川下流統，共立統等があるが，豊川統，土佐西統，常呂川下流統とは堆積様式が異り，共立統とも母材，堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

D 地 形 常呂川流域の低平地

C 気 候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏しばしば低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温5.6℃，年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，馬鈴薯，ビート，豆類，麦類その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

一部やや地下水位高く軽度の排水不良を呈するところがあるが，かかるところは軽度の暗渠排水が望ましい。凝灰質に由来するため比較的瘠薄化し易い土壌と考えられるから堆肥，緑肥等有機物の施用が必要である。

F 分 布

常呂郡常呂町字土佐の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
土 佐-土 佐	II t w n

② 土壌区別説明

土 佐 一 土 佐

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 厚 等 級	表 効 土 層 的 含 深 量	表 耘 土 層 的 難 易	耕 土 的 粘 着 性	(表 土 的 乾 硬 さ)	(透 水 性)	(保 水 性)	自 然 沃 潤	(保 固 力)	養 分 状 態	(置 換 性)	(微 効 量)	(酸 性 度)	障 害 質 障 害 有 無 性	災 害 的 障 害 危 險 性	傾 斜 的 傾 斜 度	侵 蝕 的 傾 斜 度	耐 風 蝕 性
	t d g p		w		f		n		i	a	s	e					
II	II I I I 2 2 1	II 2 2 2	I 1 2 1	II 1 1 1 1 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1
簡略分級式	II t w n																

A 土壤区の特徴

この土壤区は土佐統に属する。作土の厚さは20～25cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。透水性良好、保水性中庸であるが、一部地下水位がやや高いため軽度の排水不良を呈するところがある。その他の大部分は適潤状態を呈す。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態はやや良好で自然肥沃度は中位である。作土の養分含量は比較的高いが、下層土は石灰、苦土、磷酸が少く、やや酸性を呈する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

一部地下水位が高いため軽い排水不良を呈するところがあるからかかるところは軽度の暗渠排水が望ましい。凝灰質を母材とする土壤で比較的地力が低下し易い性状を有するから堆厩肥、緑肥等有機物の施用による地力の維持が必要であり、深耕時には石灰の施用、施肥量の増加を必要とする。

D 分 布

常呂郡常呂町字土佐の一部
 記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭和43年3月31日

吉 野 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18～27cmで腐植含量7～8%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度2の場合が多い。半風化、風化細小中角礫に富み、粒状構造で発達程度は中度である。ち密度1.5前後で疎、pH(H₂O)5.0～5.5、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20～30cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。半風化、風化細小中角礫に富む。色は10YRで彩度3、明度6の場合が多い。

細塊状構造で発達程度は弱度のもが多く、細小孔に富む。ち密度20～23で中、pH(H₂O)5.0～5.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下50～60cm以下で腐植を欠き、半風化、風化細小中角礫からなる礫層。

代表時断面形態

(所在地) 常呂郡常呂町字吉野 試坑№仁4

第1層	0～27cm	腐植に富む黒色(10YR2/1)のLiC、半風化、風化細小中角礫に富む、発達中度の粒状構造、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り半乾境界波状漸変。
第2層	27～50cm	腐植を欠く灰黄(10YR6/3)のLiC、半風化、風化細小中角礫に富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度23で中、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	60cm～	半風化、風化細小中角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～27	4.6	0.9	33.8	25.1	40.2	LiC	4.41	0.43	10	7.6
2	27～50	1.1	14.2	22.4	34.9	28.5	LiC	0.71	0.08	9	1.2

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.1	4.2	6.3	26.1	7.6	0.4	0.2	29.1	1.600	5.4
2	5.1	4.1	10.8	23.2	10.6	3.5	0.4	45.7	7.07	tr

A-2 他の土壌統の関係

本統に隣接または類似の統としては吉野南統、豊美西統、日吉南統、福山南統等があるが、吉野南統、豊美西統とは母材、堆積様式が異り、日吉南統とは母材が異り、福山南統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩(中生層砂岩、頁岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 波状性洪積台地から丘陵性山地に連なる傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害を受ける。年平均気温5.6℃、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯、麦類、牧草その他の作物が栽培され、他は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため水蝕発生のおそれがあるから等高線栽培、緑作帯の設置等水蝕防止対策が必要である。また養分分の流亡も起り易いから堆肥、緑肥等有機物の施用を図り施肥量を増量する必要がある。

F 分 布

常呂郡常呂町日吉の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
吉 野 東-吉 野 東	III d f II t g p n i s e

② 土壌区別説明

吉野東-吉野東

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	表 土	耕 土	(表 土)	(表 土)	(土 透)	(土 保)	(自 保)	(固 層)	(養 置)	(置 〃)	(〃 〃)	(有 微)	(酸 障)	(有 物)	(災 增)	(傾 地)	(傾 自)	(侵 人)	(耐 耐)															
生 産 力 可 能 性 厚 等 級	効 土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量	土 層 的 厚 量															
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃															
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
III	II	III	II	II	III	2	1	I	1	2	1	III	1	3	3	II	1	3	2	2	2	2	II	1	2	I	1	1	II	2	--	II	2	2	2
簡略分級式		III d f II t g p n i s e																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は吉野東統に属する。表土の厚さは、8~27cmで中庸，有効土層は50cm以内で浅い。作土は細粒質で粘着性強く，角礫に富むため耕起碎土はやや困難である。透水性良好で過湿，過干のおそれはない。

保肥力大，磷酸固定力大，土層の塩基状態は不良で自然肥沃度はやや低い。置換性石灰，苦土，加里，有効態磷酸含量やや低く酸性を呈する。

傾斜地のため水蝕発生のおそれが多く，また養肥分の流亡も起り易い土壌である。礫層が浅いため物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯，麦類，牧草等が栽培され，他は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

水蝕発生のおそれが多いから等高線栽培，緑作帯の設置或は牧草作付により水蝕を防止することが大切であり，養肥分の流亡が起り易く，養分含量も少いから堆厩肥，緑肥等有機物の施用を怠らずまた施肥量を増やすことが必要である。

D 分 布

常呂郡常呂町日吉の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

北 陽 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量5%内外, 土性はLが主である。色は10YRで彩度3, 明度2のものが多い, 粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5~1.8で疎, pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下, 土性はLが主である。色は10YRで彩度3, 明度5のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む, ち密度1.6~1.8で疎, pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植を欠き, 土性はSLが主である。色は10YRで彩度4, 明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度のものも多く, 細小孔に富む。ち密度1.8前後で疎, pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下60~70cm以下で腐植を欠き, 土性はSLが主である。半風化細小中半角, 角礫を含み, 単粒構造が多く, 細小孔に富む。ち密度1.9~2.0で中。

代表的断面形態

(所在地) 北見市仁頃 試坑16仁7

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR2/3)のL, 発達弱度の粒状構造, ち密度1.6で疎 pH(H ₂ O)5.6, 調査時の湿り半乾, 境界明瞭。
第2層	20~35cm	腐植あり灰黄褐(10YR5/3)のL, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む構造面に腐植被膜あり, ち密度1.7で疎, pH(H ₂ O)5.9, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第4層	35~65層	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のSL, 発達弱度の細塊状構造, 細小孔に富む, ち密度1.8で疎, pH(H ₂ O)5.6, 調査時の湿り半乾, 境界波状漸変。
第5層	65cm~	腐植を欠き灰黄褐(10YR7/4)のSL, 半風化細小中半角, 角礫を含む, 単粒構造, 細小孔に富む, ち密度1.9で中, 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~20	1.5	6.0	51.1	30.3	12.6	L	2.98	0.24	12	5.0
2	20~35	2.0	8.4	47.8	30.1	13.7	L	0.93	0.11	9	1.6
3	35~65	2.0	11.3	61.9	19.8	7.0	SL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.6	2.0	18.2	8.4	0.6	0.4	46.2	592	15.0
2	5.9	4.8	0.8	12.5	6.5	0.9	0.0	52.0	673	2.4
3	5.6	4.4	5.0	14.0	6.1	0.8	0.4	43.6	714	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては豊美西統，日吉南統等があるが，豊美西統とは堆積様式が異り，日吉南統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（三紀層砂岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高100~160m の波状性傾斜~緩傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

畑地には馬鈴薯，ビート，ハツカ，牧草，麦類等が栽培され，その他は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

傾斜地では侵蝕のおそれがあるから等高線栽培，緑作帯設置，その他水蝕防止対策が必要である。また苦土，加里等塩基の補給に留意する必要がある。

F 分布 常呂郡常呂町登の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

①

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
北 陽 南 - 北 陽 南	II t p f n s e

② 土壌区別説明

北陽南 - 北陽南

示性分級式(畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 層 厚 深 量	表 土 層 粘 土 性 易	表 土 層 乾 硬 性 湿	透 水 性 湿	自 然 潤 肥 沃 性 度	固 定 基 肥 力 度	土 質 塩 基 状 態 否	置 換 性 塩 基 容 量	有 機 質 含 量	微 酸 性 素 度	障 害 有 無 性	災 害 危 険 性	傾 斜 度 斜 向 斜 度	侵 蝕 性 耐 蝕 性
II	t d g p	w	f	n	i	a	s	e						
	II I I II	1 2 2	I 1 3 1	II 2 1 2	II 1 2 1 1 1 2	I 1 1	I 1 1	II 2	- -	II 2 2 2				
簡略分級式	II t p f n s e													

A 土壌区の特徴

この土壌区は北陽南統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸，有効土層は1m内外でやや深い。表土の土性は中粒質で粘着性弱く反転し難い面がある。保水性やや小さく，透水性良好であるが過湿，過干のおそれは少い。

肥力中，磷酸固定力小で土層の塩基状態は中庸である。作土は置換性苦土がやや少く，下層は磷酸，加里，苦土が少い。地形は緩傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯，ビート，麦類，牧草等が栽培されているが，その他は山林原野になっている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培，緑作帯等の水蝕防止対策が必要である。堆厩肥，緑肥等有機物を施用しながら漸次深耕して行くこと，苦土，加里の増施が必要である。

D 分 布

常呂郡常呂町字登の一部

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

日 吉 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～18cmで腐植含量8～9%，土性はLiCが主である。半風化，風化細小中角礫に富む。色は7.5YRで彩度3，明度2のものが多く，細粒状構造で発達程度は弱度の場合が多い。ち密度1.5前後で疎，pH(H₂O)6.0～6.2。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ5cm内外で腐植含量2%内外，土性はCが主である。色は5YRで彩度4，明度2のものが多い。半風化，風化細小中角礫を含む。細塊状構造で発達程度はやや強度である。細小孔を含む。ち密度1.7～1.8で疎，下層との境界は波状明瞭である。

第3層は地表下20～30cm以下で腐植を欠き，半風化，風化細小中角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)常呂郡常呂町字吉野，試坑16仁23

第1層	0～16cm	腐植に富む黒褐(7.5YR2/3)のLiC，発達弱度の細粒状構造，半風化，風化細小中角礫に富む，ち密度1.5で疎，pH(H ₂ O)6.2，調査時の湿り乾境界平坦明瞭。
第2層	16～20cm	腐植を含む暗赤褐(5YR2/4)のC，発達強度の細塊状構造，細小孔を含む半風化，風化細小中角礫を含む，ち密度1.7で疎，調査時の湿り半乾境界波状明瞭。
第3層	20cm～	半風化，風化細小中角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水 分 %	粒 径 粗 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0～16	3.2	8.0	30.9	25.5	35.6	LiC	5.01	0.49	1.0	8.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.5	0.3	36.2	29.4	4.7	2.0	81.1	986	50.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては吉野南統，吉野東統，日吉北統等があるが，吉野南統とは母材堆積様式が異り，吉野東，日吉北統とも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（中生層頁岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形

緩波状を呈する洪積台地から丘陵性台地に連なる緩傾斜地。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯，麦類，豆類，牧草その他の作物が栽培され，他は山林，原野になっている。

E 農業上の留意事項

礫層が極めて浅く透水過良で養肥分の流亡も起り易い土壌であるから有機物を施用しつつ深耕して行くことが必要であり，また可能であれば埴質土壌の客入も考慮すべきであろう。

F 分布 常呂郡常呂町字吉野の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
日吉南-日吉南	III di II tgp

② 土壌区別説明

日吉南-日吉南

示性分級式（畑）

土表有表耕	(表表表)	(土透保湿)	自(保固土)	養(置換)	(有微酸)	障(有物)	災(增地)	傾(自傾)	侵(人侵)	耐(耐)
壤効土耘	土土土	地	然	層分換	" "	効	害理	冠す	斜為	水風
産土の	土の風			の性	態量		物的	水べ	然斜	水風
力の層	のの乾	の水水潤肥	肥定塩	の石苦加	燐		害質障	害のの	傾傾	蝕蝕
能の層	のの粘	土土乾	沃	基灰土里	酸要		の害	危危	方	蝕蝕
性厚含	難土着硬	乾		状豊	含"	" "	有	險險	斜向斜	蝕蝕
等深	性性さ	湿(性)度(性)度(力)態(量)	否				性(無)性(無)	度(度)度(度)	斜(斜)斜(斜)	度(性)性(性)
級級	さ(量)易									
III t d g p	w	f	n	i	a	s	e			
II III II II 3 2 2	I 1 2 1	I 1 2 1	I 1 1 1 1 1 1 1	III 1 3	I 1 1	I 1 1	I 1 1 1 1 1 1			
簡略分級式	III di II tgp									

A 土壤区の特徴

この土壤区は日吉南統に属する。作土の厚さは16cm内外で中庸，有効土層は20cm内外で甚だ浅い。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く角礫に富むため耕起碎土はやや困難である。透水性良好で過湿，過干のおそれはない。

保肥力大，磷酸固定力中で土層の塩基状態はやや良好である。作土の養分含量は比較的高いが，下層礫層のため養肥分の流亡が起り易い性質を有する。傾斜は緩かで侵蝕のおそれは少い，礫層極めて浅く物理的障害性を受ける。

B 植生及び利用状況

耕地には馬鈴薯，麦類，牧草その他の飼料作物が栽培され，その他は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

礫層極く浅く養肥分が流亡し易いから堆厩肥，緑肥等の有機物を施用して保肥力，保水力を更に高めることが必要であり，また可能であれば埴質土壤の客入も望ましいことである。

D 分 布

常呂郡常呂町字吉野の一部

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

福 山 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4~5%，土性はLiCが主である。未風化，風化細小中角礫に富む。色は10YRで彩度2，明度4のものが多く，細粒状，粒状の複合構造で発達程度は中度である。ち密度8~10で頗る疎，pH(H₂O)6.5~6.9。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下，土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度6，明度5のものが多し。細塊状構造で発達程度は中度で，細小孔に富む。ち密度15前後で疎，pH(H₂O)6.0前後。雲状の酸化沈積物を含む。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植を欠き，土性はLが主である。未風化，風化細小中角礫に富む。細塊状構造で発達程度は弱度であり，細小孔に富む。ち密度17~18で疎，雲状・管状の酸化沈積物に富む。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下45~50cm以下で腐植を欠き，未風化，風化細小中角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~20	3.8	7.2	33.8	29.1	29.9	LiC	2.56	0.30	9	4.4
2	20~35	2.5	12.2	41.7	27.5	18.6	CL	0.84	0.12	7	1.4

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.9	5.9	0.8	31.4	26.6	3.9	1.6	84.7	1.060	22.9
2	6.0	5.0	1.3	28.5	19.2	7.7	0.7	67.4	1.070	3.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては吉野東統，豊川統等があるが，何れも堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（三紀層砂岩，頁岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 3°内外の扇状地

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地化され，馬鈴薯，ビート，豆類，牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

一般に弱湿性を呈し，また一部は排水不良を呈するから排水明渠排水，暗渠排水の実施が必要である。また堆厩肥，緑肥等有機物の施用を図り地力を増進することが望ましい。

F 分布

常呂郡常呂町福山の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
福 山 南-福 山 南	III d II t g p w i

② 土壌区別説明

福山南-福山南

示 性 分 級 式

土	表	表	耕	(表)	(表)	(表)	土	(透)	(保)	(湿)	(自)	(保)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(有)	(災)	(増)	(地)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)				
壤	効	土	土	土	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	水	り	の	危	危	傾	傾	方	傾	方	傾	方	傾	方		
生	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	含	難	土	着	乾	乾	沃	基	豊	灰	土	里	酸	要	の	害	障	の	害	障	の	害	障	の	害	障	の	害	障	の	害	障	
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	量	易	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
	t	d	g	p			w		f		n									i		a		s		e								
III	II	III	II	II	3	2	2	II	1	2	2	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式	III d II t g p w i																																	

A 土壌統の細分

この土壌区は福山南統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50cm以内で浅い。作土の土性は細粒質で粘着性でやや強く、角礫に富むため耕起碎土はやや困難である。透水性良好であるが主に透水、伏流水の影響を受けてやや排水不良を呈する。

保肥力大、磷酸固定力中庸、土層の塩基状態はやや良好である。養分は作土、心土とも比較的多く酸性を呈する。地形は緩傾斜または略々平坦で侵蝕のおそれは少い。礫層が比較的浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、豆類、麦類、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

軽度の暗渠排水を要し、また排水不良を呈するところは完全な暗渠排水と捕水明渠排水の設置が必要である。堆厩肥、緑肥等有機物の施用を図りつつ漸次深耕して地力の増進を図ることが望ましい。

D 分 布

常呂郡常呂町字福山の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

月 日 昭和43年3月31日

富 丘 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量6.0%内外、土性はCLが主である。色は5YRで彩度2、明度3~4、未風化細小中半角、角礫に富む。細粒状、粒状の複合構造で発達程度は中度である。ち密度1.4~1.6で疎、pH(H₂O)6.0~6.3、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20~30cmで腐植含量2%以下、土性はSLが主である。未風化細小角礫に富み、塊状構造で発達程度は強度である。ち密度1.5~1.8で疎、pH(H₂O)6.0~6.4。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下40~50cm以下で未風化細小中角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡常呂町字富丘 試坑No佐70

第1層	0~22cm	腐植に富む黒赤褐(5YR ³ /2)のCL、未風化細小中半角、角礫に富む、発達弱度の細粒状、粒状の複合構造、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	22~45cm	腐植あり赤褐(5YR ³ /4)のSL、未風化細小角礫に富む、発達弱度の塊状構造、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	45cm~	未風化細小中角礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~22	2.7	23.9	29.4	28.7	18.0	CL	3.62	0.28	13	6.3
2	22~45	3.3	45.3	20.9	20.5	13.3	SL	0.75	0.11	7	1.3

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.1	0.5	29.3	24.0	6.3	0.3	81.9	7.21	12.3
2	6.4	5.1	0.5	25.8	21.4	5.2	0.2	82.9	6.59	2.1

A-2 他の土壌統の関係

本統に隣接または類似する統としては浜佐呂間統，豊川統等があるが，何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 変成岩（赤色珪岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形

洪積台地から丘陵性山地に接する緩傾斜～傾斜を有する扇状地。

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，馬鈴薯，豆類，麦類，牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

傾斜を呈するため水蝕のおそれがあるから等高線栽培，緑作帯の設置等の水蝕防止対策が必要である。養分分は比較的あるが下層礫層のため透水良好でかつ水蝕も加つて養分分が流亡し易いと考えられるから堆肥，緑肥等有機物の施用を図つて地力の増進に努めることが必要である。

F 分布 常呂郡常呂町字富丘の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
富 丘 南 - 富 丘 南	III d II t g p i s e

② 土壌区別説明

富 丘 南 - 富 丘 南

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 厚 等 級	表 効 土 土 的 層 的 厚 深	表 土 土 的 粘 土 性	表 土 地 的 乾 土 着 硬 性	透 水 性	保 湿 性	自 然 潤 肥 沃 性	固 定 塩 基 状 態	養 分 置 換 性	微 量 磷 素 含 量	酸 性 要 素 度	障 害 質 害 有 性	災 害 的 障 害 有 性	傾 斜 危 險 斜 度	傾 斜 危 險 斜 度	侵 蝕 性	耐 蝕 性
II III II II 2 2 1 I 1 2 1 I 1 2 1 I 1 1 2 1 1 1 II 1 2 I 1 1 II 2 -- II 1 2 2																
簡略分級式	III d II t g p i s e															

A 土壤区の特徴

この土壤区は富丘南統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は40～50cmで浅い。作土の土性は中粒質で粘着性中庸で、礫に富むが比較小礫のため耕起、碎土に支障はない。透水性大、保水性中庸で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態はやや良好である。作土の養分含量は比較的多く、心土は磷酸、加里が少い。作土、心土とも酸性は呈さない。地形は傾斜を呈し水蝕のおそれがあり、礫層が浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、豆類、麦類、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

水蝕発生のおそれがあるから等高線栽培、緑作帯の設置等の水蝕防止対策が必要である。また養肥分の流亡が起り易いから堆厩肥、緑肥等有機物を施用して地力の維持増進に努めることが必要である。

D 分 布

常呂郡常呂町字富丘の一部

記載責任者 高尾 欽 弥(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和43年3月31日

日 吉 小 沢 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量3～4%、土性はSLが主である。色は5YRで彩度3、明度4のものが多い。未風化、風化細小中角礫に富み、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度9～10で頗る疎、pH(H₂O)6.0～6.6、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量2～3%、土性はSLが主である。未風化、風化細小中角礫に富む、色は5YRで彩度4、明度4～5。細塊状構造で発達程度は中度である。細小孔に富む、ち密度18前後で疎、pH(H₂O)6.0～6.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下40cm内外以下で未風化細小中角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡常呂町字日吉 試坑№ 北73

第1層	0～23cm	腐植を含む灰赤褐(5YR4/3)のSL、未風化、風化細小中角礫に富む、発達弱度の粒状構造、ち密度9で頗る疎、pH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	23～40cm	腐植を含む赤褐(5YR4/4)のSL、未風化、風化細小角礫に富む、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	40cm～	未風化細小中角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0～23	1.1	32.0	42.4	14.6	11.0	SL	136.6	2.76	2.25	0.18	13
2	23～40	1.8	8.5	63.7	18.2	9.6	SL	101.4	2.71	1.31	0.14	8

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H ₂ O	Ko1			CaO	MgO	K ₂ O			
1	3.9	6.6	5.3	0.5	25.0	22.9	2.0	0.3	91.6	968	18.2
2	2.3	6.5	5.2	0.3	32.2	20.6	6.9	0.1	64.0	1030	6.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては日吉北統，富丘南統があるが，日吉北統とは堆積様式が異り，富丘南統とは土性，有効土層の深さが異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 変成岩（赤色珪岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 小河川上流の扇状土

C 気候

気候一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわれて冷害を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 内外

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，馬鈴薯，豆類，麦類，牧草その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

土性粗く礫層が浅いため地力の減耗を招き易い，堆厩肥，緑肥等有機物の施用を図つて地力の維持増進に努めることが肝要である。

F 分布 常呂郡常呂町

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
日吉小沢一日吉小沢	III d II t g i

② 土壌区別説明

日吉小沢一日吉小沢

示性分級式（畑）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	土 表 効 土 層 の 粘 土 含 量 易	表 土 土 地 の 乾 粘 土 着 硬 性	表 土 土 地 の 乾 硬 性	透 水 性	保 湿 性	自 然 潤 沃 力	養 分 換 性 否	置 換 性	微 酸 性	障 害 有 無 性	災 害 有 無 性	傾 斜 度	人 為 傾 斜 度	耐 風 蝕 性
t d g p		w		f		n		i	a	s	e			
III	II III II I	I I I I I	I I I I I	I I 2 I	I I I 2 I I I	II I 2 I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I
簡略分級式	III d II t g i													

A 土壤区の特徴

この土壤区は日吉小沢統に属する。作土の厚さは20～25cmで中庸，有効土層は40cm内外で浅い。作土の土性は粗粒質で粘着性弱く，細小礫に富むが耕起碎土に大きな支障はない。透水過良気味であるが山地からの水分の供給があるため過湿，過干のおそれは少ない。

保肥力大，磷酸固定力中で土層の塩基状態は良好である。作土の養分含量は比較的多く，下層は加里が少い。作土，心土とも酸性を呈さない。

地形は緩傾斜～略平坦で侵蝕のおそれは少ない。礫層が浅く物理的障害を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，馬鈴薯，豆類，麦類，牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

土性粗粒質で礫層浅いため地力の減耗が早いと考えられるから堆厩肥，緑肥等有機物の施用を図つて地力の維持増進に努めることが必要である。また可能であれば埴質土壤の客入等も考慮することが望ましい。

D 分 布

常呂郡常呂町

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

共 立 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量10%以上，土性はL i Cが主である。色は7.5 Y Rで彩度1，明度2のものが多く，ち密度10以下で頗る疎，pH(H₂O)5.0前後，下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量20%以上，土性はH Cである。色は7.5 Y Rで彩度4，明度4のものが多し。pH(H₂O)4.9，ヨシに泥土が混入した亜泥炭である。

第3層は厚さ30～40cmで，色は7.5 Y Rで彩度3，明度2のものが多く，ヨシに泥土が混入した亜泥炭で分解良好である。

第4層は地表下70cm内外以下で，色は7.5 Y Rで彩度3，明度4のものが多く，ヨシ，ハンノキ泥炭に泥土が混入した亜泥炭で分解良好である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡常呂町字共立 試坑№ L p 6

第1層	0～25 cm	腐植に富む黒色(7.5YR ² /1)のL i C，ち密度8で頗る疎，pH(H ₂ O)5.1，調査時の湿り湿，境界平坦明瞭。
第2層	25～35 cm	褐色(7.5YR ⁴ /4)のH C，ヨシ泥炭に泥土を混入した亜泥炭，分解極良好pH(H ₂ O)4.9，調査時の湿り湿，境界波状明瞭。
第3層	35～70 cm	黒褐(7.5YR ² /3)のヨシ泥炭に泥土を混入した亜泥炭，分解良好，調査時の湿り潤，境界波状明瞭。
第4層	70 cm～	褐色(7.5YR ² /3)のヨシ，ハンノキからなる泥炭に泥土を混入した亜泥炭分解良好，調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~25	4.0	2.1	36.1	28.9	32.8	LiC	68.2	2.39	6.62	0.68	1.0
2	25~35	7.8	0.1	4.8	33.3	61.8	HC	42.8	2.38	20.66	1.73	1.2

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	11.0	5.1	4.5	4.7	38.7	10.8	3.5	0.5	2.78	3,070	5.8
2	3.4	4.9	4.5	4.7	46.0	15.2	9.1	0.3	3.30	1,740	0.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては土佐西統、福山統、岐阜東統等があるが、土佐西統、福山統とは母材、堆積様式が異り、岐阜東とは泥土の混入及び分解度が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 ヨシ、ハンノキ（非固結水成岩混）

A-4 堆積様式 集積（水積物を混入）-亜泥炭

B 地形 常呂川流域の低平地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害を受ける。年平均気温 5.6℃、年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、牧草その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

概ね暗渠排水が実施されているが未施工地域は不完全なところは完全な暗渠排水の実施が必要である。泥炭地の特徴として磷酸、加里含量が低いから施肥は磷酸、加里に重点を置き、更に酸性矯正を完全に行うべきである。

F 分布

常呂郡常呂町字共立の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
共 立-共 立	III wf II tn

② 土壌区別説明

共 立 一 共 立

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	土	養	(配	(有	(微	(酸	障	(有	(物	(災	(増	(地	傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	
壤	生	効	土	土	土	土	の	地	然	層	の	性	換	の	性	態	量	害	理	冠	す	水	の	傾	斜	然	為	水	風				
産	土	土	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	障	害	の	傾	斜	傾	方	傾	傾	度	性	性		
力	の	層	磧	の	粘	土	着	乾	沃	基	豊	灰	土	里	酸	要	害	障	害	危	險	傾	斜	傾	斜	傾	度	性	性	性	性		
可	の	厚	含	難	性	性	性	性	度	力	力	態	否	素	度	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
能	の	等	深	量	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	
性	厚	等	深	量	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	
等	厚	等	深	量	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	
級	さ	さ	量	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	
	t	d	g	p		w		f		n										i		a		s									
III	II	I	I	I	3	1	1	III	1	1	3	III	1	4	3	II	1	1	1	2	2	I	1	1	I	1	1	I	1	--	I	1	1
簡略分級式 IIIwfIItn																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は共立統に属する。作土の厚さは20～25cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質であるが粘着性弱く耕起碎土は容易である。透水性良好であるが地下水位高いため排水不良を呈していたが近年暗渠排水の実施によりかなり緩和されているが、一部排水不完全なところや排水未実施のところは過湿のおそれが多い。

保肥力大、磷酸固定力強大で、土層の塩基状態は不良である。作土は磷酸がやや少く、未だ酸性を呈する。心土は磷酸に欠乏し、加里が少く、酸性を呈する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、麦類、ビート、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

排水不完全または未実施のところは完全な暗渠排水の実施が必要であり、未だ完全な酸性矯正が実施されていないところがあるから更に完全な酸性矯正を要する。施肥の重点を磷酸、加里に置くことが望ましい。

D 分布

常呂郡常呂町字共立の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和43年3月31日

岐 阜 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 増面の特徴

第1層は厚さ13～15cmで腐植含量20%以上、土性はLiCが主である。色は5YRで彩度2、明度2のものが多く。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0以下で頗る疎、pH(H₂O)5.5～

5.7, 下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で、色は5YRで彩度3, 明度3のものが多く、ヨシ, ハンノキ, スギナからなる低位泥炭である。分解不良である。ち密度1.0以下で頗る疎, pH(H₂O)4.0~4.5, 下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ20~30cmで、色は5YRで彩度1, 明度3のものが多い。ヨシを主材とし、スギナを混ざる低位泥炭で分解不良である。ち密度1.0以下で頗る疎, pH(H₂O)4.5~5.0, 下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下60cm内外以下で色はNで明度3のものが多い。ヨシを主材とし、ハンノキを混ざる低位泥炭で、分解はやや良好である。ち密度1.0以下で頗る疎, 第3層との間に薄層の火山砂を挟む。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡常呂町字共立 試坑No. Lp9

第1層	0~13cm	黒褐(5YR2/2)の腐植土(LiC), 発達弱度の細粒状構造, ち密度1.0以下で頗る疎, pH(H ₂ O)5.7, 調査時の湿り湿, 境界平坦明瞭。客入土を混ざる。
第2層	13~35cm	黒赤褐(5YR3/3)のヨシを主材とし、ハンノキ, スギナを混ざる低位泥炭分解不良, ち密度1.0以下で頗る疎, pH(H ₂ O)4.3, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第3層	35~60cm	黒褐(5YR3/1)のヨシを主材とし、スギナを混ざる低位泥炭, 分解不良, ち密度1.0以下で頗る疎, pH(H ₂ O)4.9, 調査時の湿り湿, 境界波状明瞭。
第4層	60cm~	黄黒(N3/0)のヨシを主材とし、ハンノキを混ざる低位泥炭, 分解やや良好, 調査時の湿り潤, 第3層との間に薄層の火山砂を挟む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 粗 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~13	5.6	5.8	32.8	31.7	29.7	LiC	58.7	1.82	14.59	1.08	14
2	13~35	8.6	—	—	—	—	泥炭	29.3	1.24	36.28	2.16	17
3	35~60	8.0	—	—	—	—	泥炭	—	—	—	—	—

層位	腐 植 %	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基配換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
		H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	25.1	5.7	5.0	0.6	4.23	3.97	4.2	1.2	93.9	1,480	16.9
2	60.5	4.3	3.8	10.6	—	21.7	2.4	0.7	—	1,740	tr
3	—	4.9	4.3	5.0	—	16.9	3.6	0.5	—	700	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては西口統, 浜佐呂間統, 共立統があるが、西口統, 浜佐呂間統とは母材, 堆積様式が異り、共立統とは泥土の混入及び分解度が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 ヨシ, ハンノキ, スギノ

A-4 堆積様式 集積(低位泥炭)

B 地 形 常呂川流域の低平地。

C 気 候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まれて冷害凶作を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 内外。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、麦類、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

排水不完全或は未実施のところは完全な暗渠排水の実施が必要である。酸性矯正不十分なところは更に石灰を施用し、施肥の重点を磷酸、加里におくことが望ましい。

F 分 布

常呂郡常呂町字共立の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
岐 阜 東 - 岐 阜 東	III w II t f n

② 土壌区別説明

岐 阜 南 - 岐 阜 南

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 層 厚 深	耕 耘 土 質 粘 着 性	表 土 層 厚 深	表 土 層 厚 深	土 質 粘 着 性	透 水 性	保 水 性	自 然 沃 土	固 層 力	養 分 状 態	置 換 性	有 機 質 量	微 酸 性	障 害 有 無	物 質 障 害 有 無	災 害 危 険 度	傾 斜 度	傾 斜 度	傾 斜 度	侵 入 傾 斜 度	耐 風 蝕 性										
t d g p						w		f		n				i		a		s			e										
III	II	I	I	I	3	1	1	III	1	3	3	II	1	2	1	II	1	1	1	2	2	I	1	1	I	1	1	I	1	1	1
簡略分級式 III w II t f n																															

A 土壌区の特徴

この土壌区は岐阜南統に属する。作土の厚さは 10~15cm で浅く、有効土層は 1m 以上で深い。作土の土性は細粒質であるが粘着性やや弱く耕起、砕土は容易である。透水性良好であるが地下水水位高いため排水不良を呈しているが、暗渠排水の実施により排水不良は大部分緩和されている。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は良好である。土壌改良の進んでいないところは土壌の塩基状態は不良である。作土の養分含量は土壌改良や肥培管理によつて高められているが、下層は磷酸に欠乏し、加里、苦土が少いことが通例である。また土壌管理や土壌改良の進んでいないところは酸性を

呈し、磷酸、加里が少い。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、麦類、ビート、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

排水未施工或は不完全なところは完全な暗渠排水の実施が必要である。土壤改良や土壤管理の不完全なところは酸性矯正を完全に実施し、磷酸、加里に施肥の重点をおくべきである。石灰、磷酸を増施しつつ漸次深耕して行くことが望ましい。

D 分 布

常呂郡常呂町字共立の一部

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

岐 阜 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13~15cmで腐植含量20%以上で、土性はCLが主である。色は5YRで彩度2、明度2のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10以下で頗る疎、pH(H₂O)4.3~4.5。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で、スゲ、ヨシ、ツルコケモモ、ヤチヤナギ、ハンノキからなる中間泥炭で分解不良である。ち密度10以下で頗る疎、pH(H₂O)4.3~4.5。下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ40~50cmで、ゼンマイ、スゲ、ハンノキ、ツルコケモモ、ヨシからなる中間泥炭で分解不良である。ち密度10以下で頗る疎である。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下概ね80cm以下でヨシ、ハンノキからなる泥炭で分解不良である。ち密度10以下で頗る疎。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡常呂町字岐阜 試坑No.TP

第1層	0~13cm	黒褐(5YR2/2)の腐植土、発達弱度の細粒状構造、ち密度10以下で頗る疎、pH(H ₂ O)4.3、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	13~35cm	暗赤褐(5YR2/3)のスゲ、ヨシ、ツルコケモモ、ヤチヤナギ、ハンノキからなる中間泥炭で分解不良、ち密度10以下で頗る疎、pH(H ₂ O)4.3、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
第3層	35~80cm	黒褐(5YR2/1)のゼンマイ、スゲ、ハンノキ、ツルコケモモ、ヨシからなる中間泥炭、分解不良、ち密度10以下で頗る疎、調査時の湿り潤、境界平坦明瞭。
第4層	80cm~	灰黄橙(10YR7/2)のヨシ、ハンノキからなる低位泥炭、分解不良、ち密度10以下で頗る疎、調査時の湿り潤。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~13	3.2	7.7	43.4	25.5	23.4	CL	14.45	0.94	15	24.9
2	13~35	10.4	1.0	3.7	19.6	75.7	HC	38.72	2.40	16	64.5

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.3	3.8	16.9	31.4	9.8	3.1	0.6	3.12	980	12.8
2	4.3	3.8	41.3	—	20.1	6.2	0.5	—	1,430	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては岐阜東統，岐阜統があるが，岐阜東統は中間泥炭であり，岐阜統とは母材，堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 スゲ，ツルコケモモ，ヨシ，ヤチヤナギ，ハンノキ

A-4 堆積様式 水積（中間泥炭）

B 地形 常呂川流域の低平地

C 気候

一般に冷涼で，オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見まわられて冷害を受ける。年平均気温 5.6℃，年間降水量 800mm 内外

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され，馬鈴薯，ビート，麦類，牧草その他の作物が栽培されており，一部は原野になつている。

E 農業上の留意事項

地下水水位高く排水極く不良を呈するから完全な明渠，暗渠排水の設置が必要で，更に酸性矯正を完全実施することが必要である。

土壌改良，土壌管理の不十分なところは磷酸，加里の増施が必要で，苦土の施用も欠かせない。

F 分布 常呂郡常呂町字岐阜の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和 43 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
岐 阜 南 - 岐 阜 南	IVw III n II t f

② 土壌区別説明

岐 阜 南 - 岐 阜 南

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 深	表 土 の 粘 土 性	表 土 の 乾 燥 性	透 水 性	保 水 性	自 然 潤 肥 沃 力	保 固 層 の 性 質	養 分 置 換 性	有 効 態 量	障 害 質 障 害 有 無 性	災 害 物 理 的 障 害 危 險 性	傾 斜 度	傾 斜 度	侵 蝕 性	耐 風 蝕 性
IV	II I I I 2	1 1	IV 1 3 4	II 1 2 2	III 1 1 1 1 2 3	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1
簡略分級式	IVw III n II t f														

A 土壌区の特徴

この土壌区は岐阜南統に属する。作土の厚さは15cm内外でやや浅く、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起、砕土は容易である。透水性良好であるが地下水位高いため過湿のおそれが甚だしい。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は略々中庸である。作土は土壌改良、土壌管理によつて養分含量は比較的多いが、酸性を呈する。土壌改良、土壌管理の不十分なところは酸性を呈し、石灰、磷酸、加里、苦土等何れの養分分にも乏しい特徴を有する。地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性も存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて麦類、馬鈴薯、ビート、牧草等が栽培されているが、一部は原野のまま放置されている。

C 地力保全上の問題点

排水不十分なところが多く、一般に明渠、暗渠排水の完全な実施が必要であり、酸性矯正も合わせて重要である。土壌管理不十分なところは酸性矯正は勿論のこと磷酸、加里に施肥の重点を置き、苦土の施用が必要である。またビート栽培の場合は硼素入肥料の使用が望ましい。

D 分 布

常呂郡常呂町字岐阜の一部

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和43年3月31日

3. 保全対策地区区分及び説明

(1) 保全対策地区の設定

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

畑

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
吉野南	吉野南一吉野南	88	水蝕が発生する 地力が低下し易い 塩基、磷酸がやや少い	侵蝕防止 有機物施用 施肥合理化
能取西	能取西一能取西	223	堅密層が比較的浅い 腐植が一般に少い 塩基、磷酸が少い	心土破碎 有機物施用 施肥合理化
浜佐呂間	浜佐呂間一浜佐呂間 豊美西一豊美西 岐阜一岐阜	1,527	過湿のおそれがある 堅密層が浅い 塩基、磷酸が少い 腐植が少い	排水 心土破碎 施肥合理化 有機物施用
鐘沸	鐘沸一鐘沸	29	酸性を呈する 磷酸、加里が少い 水蝕が発生する	酸性矯正 施肥合理化 侵蝕防止
常呂川不流	常呂川下流 一常呂川下流 日吉東一日吉東 仁倉川一仁倉川	477	腐植が少い 作土が一般に浅い 礫質地が局部的に分布	有機物施用 深耕 一部客土
豊川	豊川一豊川	476	過湿のおそれが多い	排水

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
	共立東-共立東 西口-西口 西口上-西口上 ライトコロ -ライトコロ		腐植含量が低い 加里が少ない	有機物施用と深耕 施肥合理化
福 山	日吉北-日吉北 福山-福山 土佐西-土佐西	203	過湿のおそれが多い 腐植含量が低い 加里が少ない 作土層が一般に浅い 福山区は酸性を呈する	排水 施肥合理化 深耕 一部酸性矯正
土 佐	土 佐-土 佐	228	過湿のおそれがある 腐植含量がやや少ない 石灰等が少ない	軽度の排水 有機物施用と深耕 塩基の補給
吉 野 東	吉野東-吉野東 北陽南-北陽南 富丘南-富丘南	521	水蝕のおそれがある 腐植がやや少ない リン酸,加里,苦土が少ない	侵蝕防止 有機物施用 施肥合理化
日 吉 南	日吉南-日吉南 福山南-福山南 日吉小沢-日吉小沢	171	腐植がやや少ない 礫層の極く浅いところ 礫質地は養分が流亡し 易い	有機物施用 施肥合理化
共 立	共立東-共立東 岐阜南-岐阜南	447	過湿のおそれが多い 酸性を呈する リン酸,塩基が少ない	排水 酸性矯正 施肥合理化

2) 保全対策地区別説明

畑

(吉野南保全対策地区)

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡常呂町	88	吉野南-吉野南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

凝灰質を母材とする台地土壌で、地形によつて地力差がある。即ち斜面頂部は水蝕により瘠薄化し、斜面下部は斜面から表土が集積し腐植含量多く養分に富む場合が多い。リン酸,加里がやや少く、塩基が流亡し易い性状を有する。

地形は傾斜～緩傾斜を呈し、土壌は耐水蝕性に乏しいため水蝕が発生する。

② 営農の方向, その他

混同経営が主に行われている。水蝕防止, 有機物施用を充分経営に加味して行くことが必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備 考
侵蝕防止	吉野南-吉野南 88ha	等高線栽培 緑作帯設置 牧草の作付	指 導	

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	吉野南－吉野南 88ha	堆厩肥施用 緑肥作物栽培	家畜の導入	畜産の振興助成
施肥合理化	88ha	磷酸，加里の増施 苦土の施用	指導，熔燐の併用	ビートは硼素入肥料を施用する

〔能取西保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡常呂町	223	能取西－能取西

(2) 保全対策地の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

凝灰質砂岩，頁岩等を母材とする台地土壌で，堅密層が一般に浅く，やや平坦なところは堅密層上部に鉄錆を有する場合が多い，即ち一般に停滞水を生じて一時的に過湿になるおそれがある。磷酸，加里がやや少ない。

波状性傾斜を呈し水蝕発生のおそれがある。

② 営農の方向，その他

混同経営，酪農経営が行われている。水蝕防止，有機物施用を重点的に加味して主畜経営を一層推進することが必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
心土破砕	能取西－能取西 223ha	50～60cmまで 心土破砕	大型機械の利用 事業費の助成	
有機物施用	同上	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	家畜の導入推進 指導	畜産の振興助成
施肥合理化	同上	磷酸，加里の増施 苦土の施用 ビートには硼素を 施用のこと	指導	

〔浜佐呂間保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡常呂町	223	浜佐呂間－浜佐呂間，豊美西－豊美西，岐阜－岐阜

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

凝灰質砂岩，粘土その他からなる台地土壤で所謂重粘地と称されているものである。地表下40～50cm以下は堅密な盤層で不透水層を形成していて，その上部には鉄錆斑を有する。これは春季融雪融凍時や降雨時には一時的に停滞水を生じて排水不良を呈する。腐植含量が多いところもあるが，一般に少く，土壤は乾燥すると固結し碎土困難となり過干になるときもある。

酸性を呈し，燐酸，塩基に不足する場合が多い。地形は緩波状を呈し水蝕発生のおそれがある。

② 営農の方向，その他

主畜経営が行われているが更に主畜経営を推進することが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類，型式，数量等	備考
排水	浜佐呂間一浜佐呂間 豊美西一豊美西 岐阜一岐阜 1,527ha	明渠，暗渠排水の完全実施	素焼土管，塩化ビニールパイプ工事費の助成	
心土破碎	同上	50～60cmまで心土破碎	大型機械の利用工事費の助成	暗渠排水と併用のこと
施肥合理化	同上	燐酸，加里の増施 苦土の施用	指導	畜産の振興助成
有機物施用	同上	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	家畜の導入推進指導	

〔 鑑沸 保全対策地区 〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡常呂町	29	鑑沸一鑑沸

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

海岸線に部分的に分布する砂丘土壤である。酸性を呈し，燐酸，塩基に欠乏し，粗粒質のため塩基が流亡し易く水分が少い。波状性緩傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。

② 営農の方向，その他

殆んど未耕地で山林原野のまま放置されている。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類，型式，数量等	備考
酸性矯正	鑑沸一鑑沸 29ha	炭カル施用	炭カル 300～400kg/10a	
施肥合理化	同上	燐酸，加里の増施	熔成燐肥の併用	
保全耕作	同上	等高線栽培 緑作帯の設置		

〔常呂川下流保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡常呂町	477	常呂川下流ー常呂川下流, 日吉東ー日吉東, 仁倉川ー仁倉川

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

主として常呂川流域に分布する砂岩、赤色珪岩風化物を母材とした沖積土で、土性中粒質～細粒質で保水、透水性中庸な土壌であり、過湿、過干のおそれは少い。構造よく発達したやや良好な沖積土壌であるが腐植含量、置換性加里含量が低い傾向を有し、局部的に礫質地が分布し、かかるところは透水過良のため過干のおそれがある。

② 営農の方向、その他

穀菽経営、混同経営が行われている。有機物施用と経営の集約化が必要事項であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
有機物施用	常呂川下流 ー常呂川下流 日吉東ー日吉東 仁倉川ー仁倉川 477ha	堆厩肥施用 緑肥作物の栽培	指 導	
深 耕	同 上	有機物を施用して 漸次深耕	指 導	
一部客土	同 上	礫質地は埴質土の 客入	指 導	

〔豊川保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡常呂町	476	豊川ー豊川, 共立東ー共立東, 西口ー西口, 西口上ー西口上, ライトコローライトコロ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川及びライトコロ川流域に分布する沖積土で、砂岩、頁岩、赤色珪岩等の風物堆積物を母材とするため土性は細粒質であり、地下水位がやや高く湿性を呈する。粘着性強く耕起碎土やや困難なため現地では砂質土の客入を望んでいる。腐植が一般に少く、置換性加里に乏しい傾向を有する。

② 営農の方向、その他

穀菽または混同経営が行われている。有機物施用と経営の集約化が今後の課題であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備考
排水	豊川-豊川 共立東-共立東 西口-西口 西口上-西口上 ライトコロ -ライトコロ 476ha	明渠, 暗渠排水の 完全実施	素焼土管, 塩ビパイプ 等工事費の助成	
有機物施用 と深耕	同上	堆厩肥, 緑肥を施 用して漸次深耕す る	指 導	
施肥合理化	同上	加里の増施	指 導	
客 土	同上	耕起砕土を容易に するため, 砂土, 砂質土の客入	工事費の助成	

(福山保全対策地区)

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡常呂町	203	日吉北-日吉北, 福山-福山, 土佐西-土佐西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川の流域に分布する低平地で泥炭地に隣接して存在する。表層は河川の氾らんによる沖積土であるが、その下層は泥炭或は亜泥炭になつていて、地下水位高く過湿を呈する場合が多い。表層は一般に腐植少く、磷酸, 加里が少い。福山区は酸性を呈する。

② 営農の方向, その他

穀菽または混同経営が行われているが、気象的条件から見て混同または主畜経営が推進されることが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備考
排水	日吉北-日吉北 福山-福山 土佐西-土佐西 203ha	明渠, 暗渠排水の 完全実施	素焼土管, 塩ビパイプ 事業費の助成	隣接の泥炭地を含 めた組織的な実施 が必要
施肥合理化	同上	磷酸, 加里の増施	熔成磷肥の併用 指 導	
深 耕	同上	有機物を施用して 漸次深耕	指 導	
一部酸性矯 正	福山-福山 ha	炭カル施用	福山区 500~700kg/10a	

〔土佐保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡常呂町	228	土 佐一土 佐

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川下流域の低平地で、表層20～30cmは砂岩、頁岩風化堆積物を母材とする細粒質の土壌が堆積し、その下層は凝灰質を母材とする水積物で土性が粗く粗粒質である。このため透水良好であるが下層は湿分が充分にあり、ところによつては軽度の排水不良を呈する。養分含量はおおむね存在するが、腐植がやや少く、石灰が中庸である。

② 営農の方向、その他

穀菽、混同経営が行われているが、海岸線に近く気象的に恵まれていないから主畜経営の方向に推進されると思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
軽度の排水	土 佐一土 佐 228ha	軽度の暗渠排水を実施する	事業費の助成	
有機物施用と深耕	同 上	堆厩肥、緑肥等を施用して漸次深耕	指 導	
塩基の補給	同 上	石灰、苦土の施用	指 導	

〔吉野東保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡常呂町	521	吉野東一吉野東、北陽南一北陽南、富丘南一富丘南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

砂岩、頁岩、赤色珪岩等を母材とする崩積または扇状堆土で、地表から角礫に富み、礫層が浅い。透水極めて良好であるが土性は中粒質～細粒質で保水性中庸で過湿、過干のおそれは少い。磷酸、加里、苦土がやや少い。緩傾斜を呈し水蝕発生のおそれがある。

② 営農の方向、その他

水蝕防止、有機物施用を経営に加味して行くことが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備考
侵蝕防止	吉野東-吉野東 北陽南-北陽南 富丘南-富丘南 521ha	等高線栽培 緑作帯の設置 牧草の栽培	指 導	
有機物施用	同 上	堆厩肥の施用 緑肥作物の栽培	家畜の導入推進	畜産の振興助成
施肥合理化	同 上	燐酸, 加里の増施 苦土の施用	指 導	

〔日吉南保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡常呂町	171	日吉南-日吉南, 福山南-福山南, 日吉小沢-日吉小沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

砂岩, 頁岩, 赤色珪岩等を母材とする扇状堆土で地表から角礫に富み, 礫層が極めて浅い。透水過良気味であるが土性は中粒質から細粒質で, 斜面上部からの水分供給があるため過湿, 過干のおそれは少ない。腐植が一般に少く, 礫質土壌のため養分の流亡が起り易いと思われる。緩傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。

② 営農の方向, その他

穀菽経営, 混同経営が行われているが, 有機物施用を充分加味して行くべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施面積	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量等	備考
有機物施用	日吉南-日吉南 福山南-福山南 日吉小沢-日吉小沢 171ha	堆厩肥の施用 緑肥作物栽培	指 導	
施肥合理化	同 上	緩効性窒素の併用 礫の甚しいところは窒素の分施	指 導	

〔共立保全対策地区〕

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡常呂町	447	共立-共立, 岐阜東-岐阜東, 岐阜南-岐阜南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川下流域の低平地に広がる所謂泥炭地で亜泥炭、低位泥炭、中間泥炭等からなるが、中間泥炭は極く少面積である。

或程度暗渠排水が実施されていて土地の乾燥化が進んでいるが、未施工地や排水溝不完全なところは排水不良を呈する。土壌は鉍質物少く酸性を呈し、磷酸、加里、苦土が少い。

② 営農の方向、その他

一般に混同経営が行われているが、海岸に近く気象条件に比較的恵まれないので、主畜経営の方向に推進されると思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	共立—共立 岐阜東—岐阜東 岐阜南—岐阜南 447ha	明渠排水，暗渠排水の完全実施	素焼土管，塩ビパイプ 工事費の助成	
酸性矯正	同上	炭カル施用	炭カル 500～1,000kg/10a	
施肥合理化	同上	磷酸，加里の増施 苦土の施用	熔成磷肥の併用 指導	

4. 調査成績一覽表

1) 土壤分析成績

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										
					礫 (風乾物中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc
吉 野 南 地 区 全	吉 野 南	仁 5	1	0~25		27	128	60	34.1	40.1	52.1	78	SiL	-	-
			2	25~45		3.7	66	9.2	64.1	73.3	5.6	21.1	SCL	-	-
			3	45~65		4.0	-	6.9	59.5	66.4	27.7	5.9	SL	-	-
浜 佐 呂 間 保 全 对 策 地 区	浜 佐 呂 間	佐 24	1	0~19		1.3	48	5.3	33.6	38.9	40.4	20.7	CL	87.1	34.0
			2	19~32		1.7	-	8.3	18.6	26.9	45.4	27.7	SiC	143.0	52.8
			3	32~45		1.2	-	5.1	18.0	23.1	32.4	44.5	LiC	142.1	54.2
	豊 美 西	仁 10	1	0~13		0.6	44	9.5	34.7	44.2	30.3	25.5	CL	121.3	46.5
			2	13~25		0.6	0.8	8.8	36.4	45.2	31.9	22.9	CL	135.9	51.1
			3	25~40		0.5	-	4.8	34.3	39.1	24.2	36.7	LiC	149.9	59.5
			4	40~		2.5	-	1.6	33.2	34.8	13.5	51.7	HC	151.5	60.7
		仁 10B	1	0~27		2.6	59.7	12.1	31.3	43.4	36.8	19.8	CL		
			2	27~48		2.8	0.70	11.5	26.7	38.2	36.3	25.5	LiC		
	岐 阜	佐 26	1	0~24		1.4	8.0	4.9	29.3	34.2	34.7	31.1	LiC		
			2	24~30		1.3	0.9	3.8	21.9	25.7	42.9	31.4	LiC		
			3	30~45		0.1	-	3.6	20.6	24.2	32.1	43.7	LiC		
鑑 沸 地 区 全 对	鑑 沸	佐 37	1	0~20		8.6	6.2	63.8	15.6	79.4	15.2	5.4	SL		
			2	20~37		0.9	2.5	91.8	0.5	92.3	5.4	2.3	S		
			3	37~		1.6	-	97.8	1.3	99.1	0.9	0	S		
能 取 西 地 区 全	能 取 西	常 2	1	0~17		3.1	4.6	10.3	26.9	37.1	40.5	22.3	CL		
			2	17~40		5.8	1.7	13.8	19.6	33.4	37.9	28.7	LiC		
			3	40~		4.7	0.8	18.6	12.5	31.1	9.4	59.5	HC		
常 呂 川 下 流 保 全 对 策 地 区	常 呂 川 下 流	北 57	1	0~20		3.0	5.0	0.3	37.5	37.8	42.7	19.5	CL	98.1	38.4
			2	20~35		0.7	2.9	0.3	25.4	25.7	53.1	21.2	SiCL	106.5	41.3
			3	35~60		0.7	-	0.9	16.3	17.2	53.9	28.9	SiC	85.1	31.9
	佐 44	1	0~20		3.8	4.9	1.4	44.1	45.5	28.4	26.1	LiC	92.7	35.6	
		2	20~30		3.4	2.8	2.7	51.3	54.0	24.2	21.8	CL	94.0	37.0	
			3	45~70		3.0	-	1.3	66.9	68.2	16.6	15.2	SCL	96.1	35.0

理学性 100 cc 溶中			化 学 性												
			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 mg/ 100g	置換性塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数 mg/ 100g	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
			H ₂ O	Kcl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
水 分 容 積 cc	空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %			%	%									
—	—	—	55	47	1.8	745	0.53	14	40.7	4750	323	528	41.5	1305	9.9
—	—	—	51	45	5.0	384	0.30	13	36.0	126.7	33.7	11.0	12.5	2350	tr
—	—	—	57	50	1.0	—	—	—	26.3	83.0	17.9	19.7	11.4	2140	tr
485	175	660	65	55	0.5	276	0.19	14	13.6	3289	288	53	86.3	666	3.2
332	14.0	47.2	5.7	4.4	5.0	—	—	—	—	—	—	—	—	600	tr
348	11.0	45.8	5.4	4.2	8.5	—	—	—	10.5	153.4	87.3	9.1	—	714	tr
375	16.0	53.5	5.7	4.6	2.0	256	0.23	11	20.7	2770	226	3.8	47.8	747	7.6
339	15.0	48.9	5.4	4.2	6.5	—	—	—	14.7	156.2	25.8	4.3	38.1	606	tr
338	6.7	40.5	5.2	4.0	14.0	—	—	—	19.0	228.0	66.1	7.7	42.6	626	tr
368	2.5	39.3	5.0	3.9	13.0	—	—	—	25.6	310.4	64.5	12.5	43.4	742	tr
			6.0	5.3	0.5	3.47	0.27	13	26.5	449.8	38.7	5.3	60.5	1040	26.7
			5.7	4.7	1.0	0.41	0.06	7	20.6	270.3	111.3	6.7	46.8	560	2.1
			5.2	4.1	12.3	—	—	—	30.5	357.0	110.6	14.6	41.8	880	tr
			5.9	5.0	1.3	4.66	0.38	12	17.0	383.6	274.2	19.2	80.4	889	13.8
			5.1	3.9	16.3	0.51	0.08	7	7.2	121.1	46.4	6.2	60.0	485	tr
			5.3	3.9	15.0	—	—	—	13.3	191.5	103.2	11.0	51.4	800	tr
			4.7	4.0	9.5	3.57	0.31	11	12.1	19.1	10.9	10.1	5.8	330	7.4
			5.4	4.5	4.8	1.47	0.07	8	6.5	17.7	9.9	3.4	9.2	182	29.9
			6.1	4.9	0.8	—	—	—	2.7	16.0	8.1	2.9	22.2	82	tr
			5.8	4.8	2.0	2.73	0.16	17	12.3	177.8	29.4	5.6	51.2	640	4.4
			5.4	4.0	22.0	0.99	0.05	20	18.6	88.9	49.0	6.8	17.2	668	tr
			5.4	4.0	63.0	0.46	0.04	12	17.4	99.0	88.1	15.3	20.1	990	tr
461	155	61.6	6.5	5.4	0.5	289	0.23	13	26.5	513.4	138.9	56.1	69.1	824	18.1
447	14.0	58.7	5.9	5.0	0.8	1.60	0.21	8	20.0	428.5	60.5	22.1	76.5	929	21.3
49.7	19.0	68.7	6.1	5.2	0.8	—	—	—	30.0	632.3	116.1	19.7	74.6	1090	19.3
42.4	22.0	64.4	6.5	5.5	0.5	289	0.23	13	31.3	714.5	75.4	54.7	81.4	940	24.1
43.0	20.0	63.0	6.4	5.5	0.3	1.60	0.21	8	27.6	577.6	59.7	22.1	74.6	760	6.2
47.5	17.5	65.0	6.4	5.2	0.3	—	—	—	22.8	409.9	67.1	8.6	64.1	720	7.4

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性									現地における	
					礫 (風乾物中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %			
吉野東保全対策地区	日吉東	北56	1	0~15		4.6	2.0	11.4	26.3	37.7	32.8	29.5	LiC		
			2	15~22		3.2	3.21	7.6	38.0	45.6	26.2	28.2	LiC		
	仁倉川	佐43B 佐呂間	1	0~22		1.2	1.17	8.9	48.5	57.4	24.3	18.3	CL		
			2	22~35											
	吉野東	仁4	1	0~27		4.6	7.6	0.9	33.8	34.7	25.1	40.2	LiC		
			2	27~50		1.1	1.2	14.2	22.4	36.6	34.9	28.5	LiC		
豊川保全対策地区	西口	佐46	1	0~22		1.5	1.3	5.9	21.4	27.3	33.1	39.6	LiC		
			2	22~35		2.0	—	1.6	47.2	48.8	29.5	21.7	CL		
	西口上	佐55	1	0~20		3.0	5.0	0.4	14.9	15.3	43.9	40.8	LiC		
			2	20~30		5.2	3.8	0.9	13.7	14.6	42.4	42.9	LiC		
			3	30~65		3.6	—	0.5	20.7	21.2	48.8	30.1	LiC		
	ライトコロト	佐38	1	0~23		3.3	10.6	45.9	13.6	59.5	18.1	22.4	CL		
			2	23~30		1.9	2.3	30.6	7.9	38.5	29.0	32.5	LiC		
	豊川	佐54	1	0~22		3.8	3.0	8.5	29.7	38.2	34.5	27.2	LiC		
			2	22~40		3.4	—	2.3	22.1	24.4	48.0	27.5	SiC		
			3	40~		4.8	—	0.1	21.4	21.5	50.1	28.4	SiC		
	共立東	佐51	1	0~22		1.8	2.4	4.7	53.5	58.2	19.4	22.4	CL		
			2	22~32		2.7	0.9	9.7	67.0	76.7	11.1	12.2	SL		
3			32~45		1.4	—	4.8	64.0	68.8	17.1	14.1	SL			
福山保全対策地区	日吉北	北67	1	0~18		2.3	5.2	1.1	23.1	24.2	51.8	24.0	SiCL		
			2	18~40		1.9	2.9	0.2	24.2	24.4	53.0	22.6	SiCL		
			3	40~60		2.9	—	0.3	10.4	10.7	52.7	36.6	SiC		
	福山	佐56	1	0~30		4.6	13.3	1.3	18.7	20.0	46.1	33.9	SiC		
			2	30~45		4.3	26.4	0.2	9.5	9.7	51.9	38.4	SiC		
			3	45~65		—	—	—	—	—	—	—	—		
	土佐西	佐55B	1	0~30		4.2	19.6	1.7	27.7	29.4	34.5	36.1	LiC		
			2	30~60		3.6	7.4	1.8	27.4	29.2	31.4	39.4	LiC		
	土佐保全地区	土佐	佐50	1	0~23		3.0	8.3	5.9	40.9	46.8	28.4	24.8	CL	
2				23~40		0.6	2.3	27.4	42.6	70.0	14.7	15.3	SL		
3				40~60		1.0	—	56.2	32.3	88.5	4.7	6.8	S		

理学性 100 cc 溶中			化学性									性			
水分容積 cc	空氣容積 cc	孔隙率 %	pH		置換酸度 Y ₁	有機物			塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係數	有効態磷酸 mg/100g
			H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
			6.0	5.1	0.3	1.14	0.08	14	21.0	2423	303	33.1	40.9	680	144
			6.2	5.2	0.3	1.86	0.23	8	31.9	7285	923	32.6	81.5	1,140	287
			6.6	5.2	0.5	0.68	0.10	7	28.4	6556	103.2	11.5	82.4	1,245	102
			5.1	4.2	0.3	4.41	0.43	10	26.1	2120	7.9	11.5	29.1	1,600	54
			5.1	4.1	1.08	0.71	0.08	9	23.2	298.1	69.6	18.7	45.7	70.7	tr
			6.7	5.8	0.3	0.78	0.09	9	25.2	389.5	101.6	17.3	55.1	76.7	80
			6.0	5.0	0.5	—	—	—	23.9	400.9	92.7	16.5	59.8	1,440	tr
			6.1	5.3	0.5	2.88	0.34	8	33.8	656.4	124.7	89.4	69.2	1,110	148
			5.8	4.9	0.5	2.23	0.25	9	32.1	602.5	134.6	40.4	67.0	1,250	81
			6.1	5.1	0.8	—	—	—	25.8	503.0	160.4	25.9	69.6	1,190	79
			4.9	4.0	1.10	6.16	0.49	13	16.1	108.2	36.3	11.5	24.2	43.3	11.2
			4.9	4.0	2.60	1.35	0.14	10	17.4	99.5	71.6	18.7	20.7	53.1	2.4
			6.2	5.3	0.8	1.76	0.27	7	26.6	467.4	48.9	83.2	62.7	1,020	20.4
			5.9	5.0	0.8	—	—	—	27.4	513.4	139.3	31.0	66.7	1,390	14.1
			5.7	4.8	2.0	—	—	—	27.5	442.4	176.6	24.5	57.3	1,280	3.4
			6.0	4.7	2.5	1.37	0.15	9	21.0	403.8	91.7	31.1	68.6	75.5	10.6
			6.0	5.0	0.5	0.52	0.08	7	19.1	337.0	82.5	11.0	62.8	72.1	9.0
			6.3	4.8	1.3	—	—	—	20.7	353.6	86.3	12.5	60.9	76.7	11.0
			6.2	5.1	0.8	2.9.9	0.27	10	79.4	612.1	108.5	33.6	27.5	1,120	15.4
			5.5	4.5	3.5	3.35	0.30	11	28.2	426.2	86.7	11.0	53.9	1,160	6.1
			5.5	4.4	6.5	—	—	—	30.4	440.5	124.0	7.2	51.6	1,220	15.2
			4.7	3.9	2.48	7.74	0.67	12	33.7	242.3	30.0	33.1	25.6	1,006	5.0
			4.4	3.7	2.75	15.30	1.17	13	50.4	349.9	41.9	23.9	24.8	2,580	tr
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			5.0	4.2	8.0	11.39	0.89	13	40.6	470.8	24.4	69.1	41.4	1,830	21.7
			3.6	3.4	2.76	4.31	0.42	10	21.9	173.6	51.8	24.9	28.3	1,330	tr
			5.9	5.0	1.0	4.82	0.43	11	32.6	607.9	71.0	60.0	66.6	76.7	22.7
			5.2	4.3	10.8	1.35	0.12	11	13.6	140.2	25.2	30.2	36.8	75.5	2.0
			5.2	4.2	11.5	—	—	—	6.6	70.1	30.2	27.3	37.9	72.1	tr

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										
					礫 (風 乾 物 中) %	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け る	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc
吉 野 東 保 全 区	北 陽 南	仁 7 北 見	1	0~20		1.5	5.0	6.0	51.1	57.1	30.3	12.6	L	787	25.9
			2	20~35		2.0	1.6	8.4	47.8	56.2	30.1	13.7	L	980	33.4
			3	35~65		2.0	—	11.3	61.9	73.2	19.8	7.0	SL	1058	36.7
日 吉 南 保 全 对	日 吉 南	仁 23	1	0~16		3.2	86.4	8.0	30.9	38.9	25.5	35.6	LiC	—	—
			福 山 南	佐 68	1	0~20		3.8	4.4	7.2	33.8	41.0	29.1	29.9	LiC
					2	20~35		2.5	1.4	12.2	41.7	53.9	27.5	18.6	CL
吉 保 策 野 全 对 区	富 丘 南	佐 70	1	0~22		2.7	6.3	23.9	29.4	53.3	28.7	18.0	CL	—	—
			2	22~45		3.3	1.3	45.3	20.9	66.2	20.5	13.3	SL	—	—
日 吉 南 保 全 区	日 吉 小 沢	佐 73	1	0~23		1.1	—	32.9	42.4	74.4	14.6	11.0	SL	1366	49.5
			2	23~40		1.8	—	8.5	63.7	72.2	18.2	9.6	SL	101.4	37.4
共 立 保 全 对 策 地 区	共 立	LP 6	1	0~25		4.0	11.0	2.1	36.1	38.2	28.9	32.8	LiC	333	18.2
			2	25~35		7.8	34.4	0.1	4.8	4.9	33.3	61.8	HC	30.1	23.3
	岐 阜 東	LP 9	1	0~13		5.6	25.1	5.8	32.8	38.6	31.7	29.7	LiC	58.7	32.3
			2	13~35		8.6	60.5	—	—	—	—	—	泥炭	29.3	23.7
			3	35~60		8.0	—	—	—	—	—	—	泥炭	—	—
	岐 阜 南	TP	1	0~13		3.2	24.9	7.7	43.4	51.1	25.5	23.4	CL	—	—
2			13~35		10.4	64.5	1.0	3.7	4.7	19.6	75.7	HC	—	—	

理学性 100 cc 溶中			化 学 性												
			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
			H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
水 分 容 積 cc	空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %													
31.1	43.0	74.1	5.6	4.6	2.0	2.98	0.24	12	182	2355	11.7	178	46.2	592	150
35.4	31.2	66.6	5.9	4.8	0.8	0.93	0.11	9	125	1822	17.9	14	52.0	673	24
37.3	26.0	63.3	5.6	4.4	5.0	—	—	—	14.1	171.6	155	19.2	43.6	714	1.2
—	—	—	6.2	5.5	0.3	5.01	0.49	10	362	823.3	94.1	95.4	81.1	986	500
—	—	—	6.9	5.9	0.8	2.56	0.30	9	31.4	747.0	78.2	76.3	84.7	1,060	229
—	—	—	6.0	5.0	1.3	0.84	0.12	7	285	537.0	154.2	32.6	67.4	1,070	3.3
—	—	—	6.3	5.1	0.5	3.62	0.28	13	29.3	673.8	126.2	12.9	81.9	721	123
—	—	—	6.4	5.1	0.5	0.75	0.11	7	25.8	598.7	105.6	9.6	82.9	659	2.1
26.9	24.0	50.9	6.6	5.3	0.5	2.25	0.18	13	25.0	643.0	48	13.9	91.6	968	182
41.6	21.0	62.6	6.5	5.2	0.3	1.31	0.14	8	32.2	577.9	138.5	24	64.0	1,030	6.9
61.8	20.0	81.8	5.1	4.5	4.7	6.62	0.68	10	38.7	302.2	70.1	24.3	27.8	3,070	5.8
64.7	12.0	76.7	4.9	4.5	4.7	20.66	1.73	12	46.0	425.9	183.7	16.2	33.0	1,740	0.4
53.7	14.0	67.7	5.7	5.0	0.6	14.95	1.08	14	42.3	1,113.4	85.2	47.6	93.9	1,480	16.9
60.3	16.0	76.3	4.3	3.8	10.6	36.28	2.16	17	—	607.3	48.3	32.8	—	1,740	tr
—	—	—	4.9	4.3	5.0	—	—	—	—	475.2	74.3	21.7	—	700	tr
—	—	—	4.3	3.8	16.9	14.45	0.94	15	31.4	274.4	62.3	28.2	31.2	980	12.8
—	—	—	4.3	3.8	41.3	38.72	2.40	16	—	562.8	124.6	23.5	—	1,430	tr